



朝の光・古代の香りが漂う



崇神天皇陵から二上山を望む

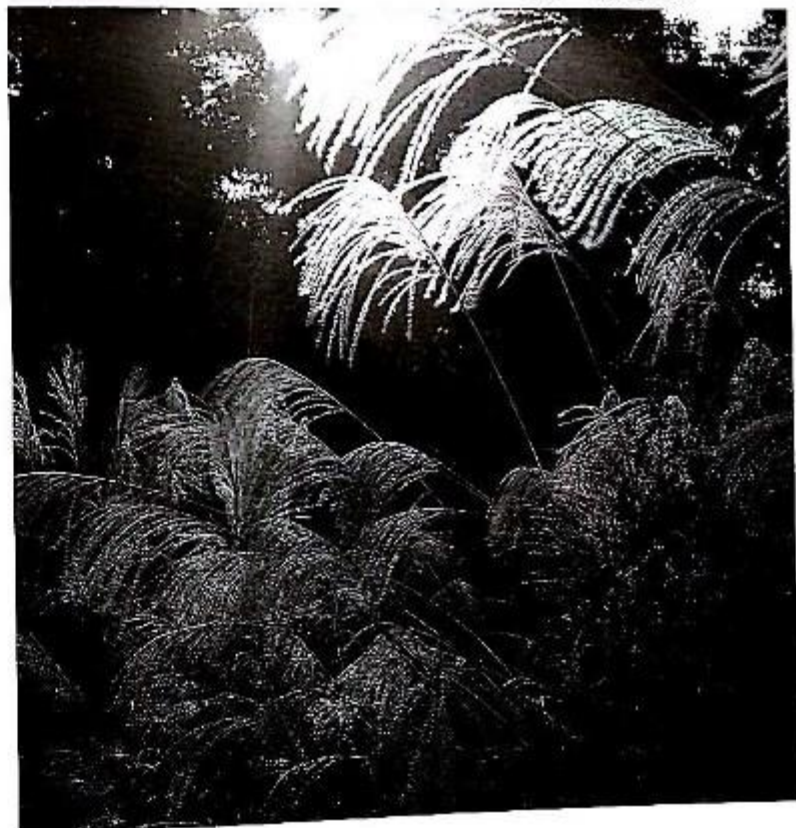
あかつき

夜の空に輝いていた
星が見えなくなり
やまなみの向こうが
青色に染まりはじめる
刻々と空の色が変わり
雲は光をはらむ
朱色の点がうかがう
ゆらゆらと揺らぎながら
大きな金色の太陽が姿を現す
光が射してきた
穂すすきの陰に
ほのかなほのかな萩の花に
雲はひらけ
大地も明らむ

Photo essay

ひかり

題字 中田 鶴石
撮影 由井 収
文 松永 恵一



穂すすきとひかり

季節の



カワラナデシコ



朝露



紅いの群

実景

初秋

撮影 武市通治



民家(美山町)



高原の秋



白馬岳 (北アルプス)

編集室



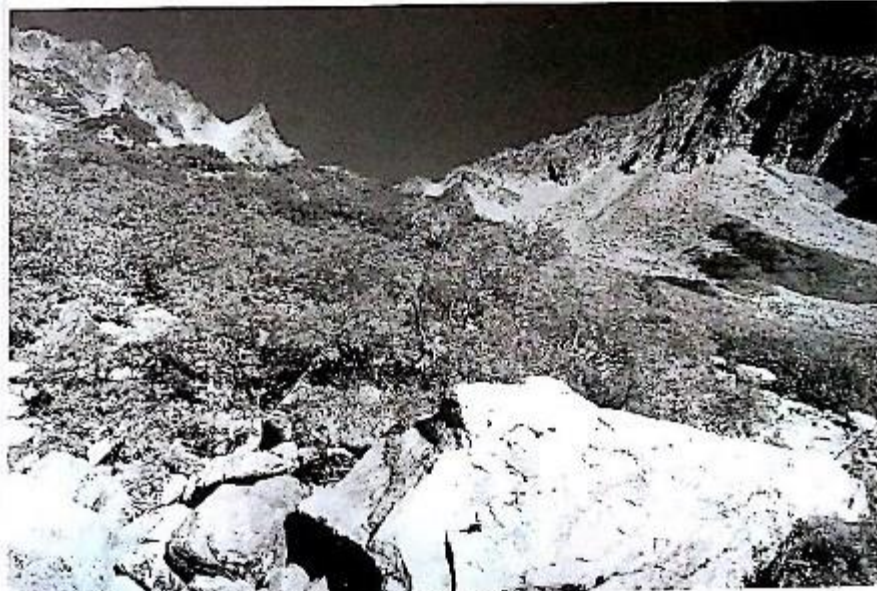
洞沢 (北アルプス)

編集室



杓子岳 (北アルプス)

編集室



洞沢の紅葉 (北アルプス)

編集室

●目次

表紙：松田敏男「遠見岳より白峰三山、期」（南アルプス）
 ●作者プロフィール ●1948年、京都府生まれ。京都府立芸術大学卒。1987年より山岳雑誌、
 山岳雑誌の編集長を務める。60年代後半、南アルプス13峰小隊、東京キャンプ隊、13
 峰登山と題して旅行記、日本山岳会誌、一峰二山会誌、山岳雑誌、山岳雑誌、山岳雑誌

新ハイキング 別冊 関西の山
 94年9・10月初版 18号

●グラビア	ひかり……撮影 由井 収 文 季節の表情(初秋) 秋の山(山のエッセイ) カムフラックの火山 遊びをせんとや 乗鞍岳の山岳	丸山 隆喜 稲垣いづき 岡本 真之	4 2
●総行	雨前、妙高、火打山 秋田駒ヶ岳より乳頭山縦走 河内 日本登山紀行16 白山 中の湯から尾根 美早・高丸山縦走 神津島・衣原島・新島・利島・大島	松田 敏男 浅野 孝一 坂本 信治 原野 益大 山形 茂之 鬼崎 弘幸	18 14 14 14 14 14 14 14 14 14
●エッセイ	熊野古道を歩く―小辺路― 高野山大滝口から大滝 大滝から道尾子峠越え 五箇峠から三浦峠越え 十津川温泉から奥無峠越え 近世の伊勢街道ハイイク⑥ 伊賀街道(山城)伊賀回廊 五箇峠から三浦峠越え 五箇峠から三浦峠越え 五箇峠から三浦峠越え	中村 敏文	52
●別研究	京都北山やふたき山行記(16) 五箇峠から三浦峠越え 五箇峠から三浦峠越え 五箇峠から三浦峠越え	京都北山グループ	39
●コース	●文学歴史探訪ハイイク⑥ 平右衛門から近江飛鳥博物館へ 五箇峠から三浦峠越え 五箇峠から三浦峠越え 五箇峠から三浦峠越え	松永 恵一 山口 恵次 出口 恵次 山形 茂之 須藤 勇	54
●ガイド	●山岳雑誌 ●山岳雑誌 ●山岳雑誌 ●山岳雑誌	須藤 勇 山形 茂之 出口 恵次 山口 恵次 松永 恵一	66 64 62 63
●アウトドア・ライフ入門⑥	「山岳雑誌」のすすめ 「山岳雑誌」のすすめ 「山岳雑誌」のすすめ 「山岳雑誌」のすすめ	二名 良日 市川 正次朗 松下 茂 小泉 敏雄	58 56 54 53
●山岳雑誌	山岳雑誌(第5回)再会(四)・洛中探訪(一)…… 山岳雑誌(第5回)再会(四)・洛中探訪(一)…… 山岳雑誌(第5回)再会(四)・洛中探訪(一)…… 山岳雑誌(第5回)再会(四)・洛中探訪(一)……	山岳雑誌(第5回)再会(四)・洛中探訪(一)…… 山岳雑誌(第5回)再会(四)・洛中探訪(一)…… 山岳雑誌(第5回)再会(四)・洛中探訪(一)…… 山岳雑誌(第5回)再会(四)・洛中探訪(一)……	73 76 73
●沿線ハイキングガイド	沿線ハイキングガイド 沿線ハイキングガイド 沿線ハイキングガイド 沿線ハイキングガイド	沿線ハイキングガイド 沿線ハイキングガイド 沿線ハイキングガイド 沿線ハイキングガイド	68 66 60
●サービスマン	サービスマン サービスマン サービスマン サービスマン	サービスマン サービスマン サービスマン サービスマン	68 66 60

●巻頭言

『関西の山』というタイトルで始めた雑誌ですが、原稿する原稿を見ますと、どうも関西の山だけに限らないようです。むしろ関西から行った山とでも考えたほうが良いような気がします。そういう意味では、タイトルにこだわらず関西から行ける山で魅力的な山も紹介していくべきではないかと考えます。

例年に参加される方は50歳前後の方が多くを占めています。そして例会を求めみにしておられるほとんどの人は、休日を利用して日帰りの山歩き、いわば登山道遊的な山歩きを期待しておられるようです。無理のないコースであまり欲ばらず、一山、一山でいいのにゆっくり時間をとって、お互いに語り合いながら楽しく歩くといったスタイルの山歩きです。

この二つのことは、雑誌の編集と、山行計画を立案するにあたってのヒントを示唆していきなす。新ハイキングクラブ関西の運営については、今後、この二つのことを念頭に置いてやっていきたいと思いがすが、いかがでしょうか。

新ハイキング関西(代表) 村田 智徳

自然を歩く仲間です。

もうすぐ紅葉の秋、山シーズン到来! OD BOXスタッフが装備を持って、オススメするスタイル別「山歩きセット」。

 <p>ワンデーハイキング</p> <p>OD BOXバックパック ¥13,000 OD BOXシューズ ¥4,000 OD BOX杖 ¥2,000 OD BOX帽子 ¥1,000 OD BOX手袋 ¥1,000 OD BOXタオル ¥1,000 合計 ¥23,000</p>	 <p>ワンデーハイキング</p> <p>OD BOXバックパック ¥13,000 OD BOXシューズ ¥4,000 OD BOX杖 ¥2,000 OD BOX帽子 ¥1,000 OD BOX手袋 ¥1,000 OD BOXタオル ¥1,000 合計 ¥23,000</p>
 <p>ワンデーハイキング</p> <p>OD BOXバックパック ¥13,000 OD BOXシューズ ¥4,000 OD BOX杖 ¥2,000 OD BOX帽子 ¥1,000 OD BOX手袋 ¥1,000 OD BOXタオル ¥1,000 合計 ¥23,000</p>	 <p>ワンデーハイキング</p> <p>OD BOXバックパック ¥13,000 OD BOXシューズ ¥4,000 OD BOX杖 ¥2,000 OD BOX帽子 ¥1,000 OD BOX手袋 ¥1,000 OD BOXタオル ¥1,000 合計 ¥23,000</p>

※この他にもいろいろなケースに対応したお買得セットをご用意して、皆様のご来店をお待ちしています。
 ご来店の際、新ハイキングクラブメンバーズカードをご提示の方には、OD BOXメンバーズ価格でご提供。

遊 衣 自然
登 食 で暮らす
CAMP 住

アウトドアライフのトータルショップ

OD BOXのコンセプトは「自然と遊ぶ楽な生活」
自分の好きなことで自然とふれあおう。「登山」の楽しさを通して、もっと自然と仲良くしたい。OD BOXはそんなハートを
持つ、一年中アウトドアのお店です。

〒600-0001 京都市中区東山町1-10-11
TEL 06(212)9696
営業時間 10:00-18:00
P. Resvno. 30-07-00

フロアが変更してさらに見やすくなりました。

4F	サイクルカヌー
3F	テニスラケット
2F	登山キャンプ用品ウェア
1F	アウトドア雑貨靴
B1	登山用品旅行カウンター





克

カムチャツカの火山

丸山 晋吉

私は山が好きだが、山登りの経験はほとんどない。あつぱら「観山」を楽しんでいる。東京のド真ん中で、ジャーナリストという商売をやっているため、好きな山を眺めることも少ない。だが、たまの山登りに、一人、坐禅山^{（註）}の悦に入るとき、この世で最も気持ちが落ちる。

仕事から、たまにはほんでもないところに行くこともある。先だって、ひよんをこなしてからカムチャツカの山々めぐりに出る機会があった。

カムチャツカは、因知のとおりロシアの極東地方にある。その面積は日本より広く、人口はたったの47万人しかない。3年前までは、ソ連の極東軍基地

地の重要な拠点であり、ソ連の人でも訪れる人間許可が厳しかった。もちろん、日本人にはアンタッチャブルの異境の地であった。それが冷戦の終結で、2年半前の新生ロシア誕生と共に解放が始まったのだ。

私が訪れたのは、4月だった。まだ春とはいえず、運気宮の日もあった。実際に現場を訪ねてみると、まさに地球に隠された最後の秘境と呼ぶにふさわしいところである。オットセイなど海獣の聖地をはじめ、人の手が入らない自然そのままがひっそりと眠っている。

ペールを脱いだカムチャツカの自然の中でも、巨岩は何といっても火山群だ。活火山を含めてその数は160もあり。名前のついていない山も多い。カムチャツカ州都のペトロパブロフ・カムチャツキーから見えるアバチヤ火山や、富士山をまわりのカリヤークスキー火山など

が、神々の峰の如くそびえ立っている。

晴れた日には、観光ヘリコプターでそれらの山々を回れるが登山を知らない私にでも、魅力たっぷりである。エニラルド色の火山口湖を持つミヤチク火山、蒸気を噴き上げているアバチヤ火山などは筆舌に尽くしがたい美しさだ。

州都から約200キロ離れたところで、クロノツキー自然保護区がある。エネスコが特別に指定した保護区で、まさに人類未踏の地である。そこへのアクセス手段としてはヘリコプターしかない。野生動物の聖域となっ

ている。この一角にゲイゼル峡谷というのがあり、カムチャツカ最大の間欠泉が噴き出していて、地球の呼吸をじかに見てとれる。

これらは、ほんの一例にすぎない。なにしろ、人間の手が入っていない自然の魅力に事欠かない。

遊びをせんとや

稲垣 いっさ

兼用やから父ちゃん呼んできて、母にせかされて山に分け入る。水道タンクのおおげけの出さうな度まで、おはげに釣かない掛け声を出して突き進む。遠い日の記憶である。

今日は前分やからヒイラキとイママを頼む。父は出がけにそう言った。愛犬ラッキーを誘って海邊を見や、まず高橋まで出かける。ヒイラキは「比呂木八尋子」という形で既に「古事記」に出ているが、鱈の頭とセットにして、前分に登場するようにしたのはいつの頃か。さうだらうか。ホクの古里、三重県の海山町や伊勢市一帯ではウベメカシをイママと呼ぶ。前分にとらうしてウベメカシかという、京やらの豆を焙烙で炒る



克

随想

(山のニッセイ)

いのがカムチャツカである。だが、早くも感嘆から「ニコツア」が入りはじめた。フィッティング、ハンティング、山スキーなど、観光客が知る日本の日なのだ。日本からも今夏、初めてのクルーズ船が出る。

ただ、今のところ、観光客の受け入れ体制がまるでできていない。施設は貧弱だし、ホテル、レストラン、金融システムなどサービスはないに等しい。言葉も英語は若干通じても、日本語はまるでダメ。通訳の人手などは皆無と言ってよい。

とはいえ、カムチャツカの現状は厳しい。軍事基地が引き揚がっており、撤去が進んでいる。モスクワのくびきから放たれた反響、経済の自立を余儀なくされている。聖地の開発は油断くらしいかない。あとは今後の観光客が唯一の頼りである。州の行政も、観光資源を口実に、日本の援助を期待してい

る。

確かに、今後、カムチャツカの生命線は観光事業にあるのかもれない。早くも、日本資本により10年後には一大リゾート地になるとする予測がある。6月から9月の短い夏で、稼げるともくろむ業者も現れはじめる。

しかし、カムチャツカは地球上に残された数少ない自然の秘境である。ここは何として、自然保護のためにこそ、日本のカネを使うべきだ。観光ビザに代えて、自然保護ビザという特別な出入国審査の方策を設けてはどうだろうか。

いま帰したる日本に帰ってきて、目に浮かぶのはあの火山群のすばらしさである。リゾートなどという妙なものの輸出だけは阻止したいと思う。山は見る人のためにもそっとしておいてほしい、と願うや切である。



克



克

随想 (山のエッセイ)

とき、この核能を使うのである。油分が多いのか、生木のままでバチバチと、いかに節分にふさわしい音をたててよく燃える。もしかしたら、「炒り豆」のりが隠れて、「いじめ」となったのではないかと、ホクはひそかに思っている。

そのイマメは今、駒形山の原木として売れっこだ。売れっこすぎて気がつけば売山、ということになりはしないかと少々心配である。積荷から僕様まで20回は必死だろう。

テレビやCDのなかった少年時代。浮世草子で満たしてくれろという点で、山や海はボク達のテレビそのもの、CDそのものであった。欠乏の時代を乗りきるための労働の一端をボク達子供は、山菜採りや魚釣りという遊びの形で、けっこう果たしていたのである。

高校時代には、測量巻を頂く兄弟のボール持ちとして、よく

して頂上へ。雲はあったが晴天で、山頂からは四方の風景が良く利いた。

帰りの道は行列に随きて、一人五ノ池へ迂回する。今では立大禁止らしいが、この頃は通行できた。入ると、前後に入は無く、標高3000m級の地にゆったり寝伏するハイマツ帯が広がる。小道は明瞭で、小さな手製の図帳やところどころにあった。コケモモの小さな実が赤く色づき始めている。思いがけず得意をしたような気分を歩いていく。

ハイマツの成みがまわって、広い小石の平原帯に出たところで、霧の幕が左手から煙を引くように流れてきた。前後を霧の幕に遮られ、まわりはすでに厚い霧に包みこまれていた。腕を前に伸ばすと、指先が霧の壁の中に落ちていくようだ。

半程まで霧に閉じこめられていたバス停までの聲音も聞えない。

山に駆り出された。大正時代のアルパイトはもっぱら、下刈り、被打ち、植え付け作業、仕事の撤しきとか充実感とかをしみじみと味わうことができたのは、あの頃が一番だったように思う。就職してから、いわゆる登山というものを始めた。「高尾山、大台ヶ原、槍ヶ岳、山にも銀座のあることを知った。今はできなだけ入けのない、名もない山を歩いている。遊びのための登山ということ、後ろめたさを覚えた時期もあったが、今はそういうことはない。

その昔、夜遅く大台ヶ原登山から帰った親父が、珍しく鎌舌で、山での興奮の数々をとくとくと語ってくれたことがあった。十代で山仕事の道に入り、七十年代まで頑固に果敢を逞し、今年九十一歳をむかえる丸くなつた親父。その親父のたつた一回の遊び登山が、あの日の大台ヶ原山行であったのかも知れない。

鳥も鳴かない。今山頂までかえって私は孤立した。歩くのを諦めて腰を下ろして霧の晴れるのを待たう。

じつと半歩の30分の寒、周囲の霧がたから右へ左へ薄紙を剥くように流れて、再び境界が閉じてきた。霧が無くれば元のどかな平原だった。尾根の下方から、鳥の音もきかれない。あがって来る。無機質な世界から生の世界に脱却した。

夕暮の霧が緑の草原の上を左手からとぎれとぎれに次々と飛んでくる。その霧の間を、雷鳥が一羽、真直ぐこちらに向かっ歩いてくる。私に気づいているはずなのに、私を無視して歩いてくる。立ち止まって動かずに見ていると、雷鳥はそのまま私の目の前へ一歩の所で登山道を横切った。その後、太ったスズメ程の大きさの子供が五羽、六羽、母親の尾羽根を踏むようにびったり親にくっつ

い。「遊びをせんとや生まれけむ 威れせんとや生まれけん 遊ぶ子どもの声聞けば わが身さへこそ痛がるべし」

「栗塵抄」の有名な歌であるが、仕事一筋だった祖回親父にも「遊びをせんとや」と山に登った日があったのかと思うと、不肖の息子としてはなせかともううれい気分になれるのである。「いや、あれも仕事やっただ」なんて言うなよ親父。……槍ヶ岳」

乗鞍岳の雷鳥 同本 真之

20年前の夏、乗鞍湖の民宿に泊まっていた。朝れた日は毎日、最後の核能と雲漢を眺めていた。8月のある日、バスで乗鞍岳へ。終点登平で降りると、ほとんどの人はそのまま列をな

いて、必死に走っていた。どれも互いに周囲の中心に入り込もうと、他の子の背に乗りかかり重なり合い押し合いながら回子になつて歩く。しかし、その中の一羽が小さなクチンで草の根をつついていくうちに、四いてきばりをつくらって、ハイマツの陰で迷子になった。この子がビビッと初歩した声をあげると、雷鳥は立ち止まり、首を意外に長く蛇のように伸ばしてクチャーと叫んだ。子はこの声に向かっ、短い足を忙しなく動かす。ハイマツの間を突進した。兄弟達の集団を見つけると、たちまちのその真ん中に躍り込んだ。雷鳥は再び歩き出し、小鳥も同行していった。

数時間後、麓の民宿に戻って乗鞍を昇り上げる。頂上部分だけすっぽりと霧に包まれていた。私が霧の中に入ると、下から居るとこんな具合だったのだからと了解した。

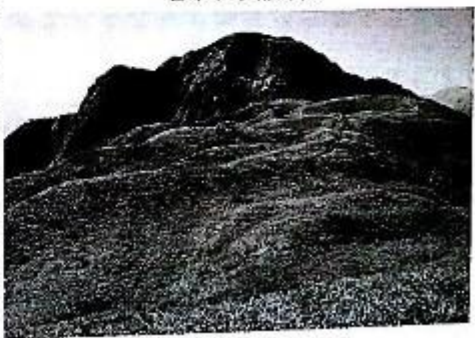
錦秋の頸城連山

雨飾、妙高、火打山

松田敏男

上信越

番平より雨飾山



月一回の十期定休に日曜と祝日が続いて
できる三連休というのは、まれにしか巡っ
てこない。その数少ない機会を最大限に生
かした思い出深い山行を昨秋行った。三選
休になることは、その年のカレンダーを見
た時から知っていたので、早くから夜行バ
ス利用の石鎚山行きの計画を練っていた。
四国は初めてなので、ガイドブックや地図
を買ひ込み、山中にテントを泊して、静か
に過ごせそうなコースをガイド文より想像
しながら計画した。

山の会の集会以て同行者の募集をしてい
たのだが、全く同じ日程で三つもの山に、
それも性格が異なっていてそれぞれに魅力あ
れる山々に登る計画が張り合ったからたま

らない。西日本最高峰の雲山（雲山）に対してはま
ことに申し訳ない気持ちもあつたが、支払
い済みの夜行バスで人分の座席をキャンセ
ルして、四国から上信越の山へ大きく越
えしたのだった。嵯峨の山から雨のたたり
を受けぬばならないかと心配したけれど、
快晴続きのまことに爽快な3日間だった。
まず最初にめざしたのは雨飾山。名刺が
なんとも魅惑的だ。嵯峨さんの車に後田さ
ん、小坂さんと私の4人が乗り、夜の北陸
道を小谷温泉へとひた走る。鏡池の上にあ
る駐車場は広く、テントを張って5時間程
眠った。

翌朝は快晴。夜に走った林道を少し戻
ると雨飾山が大きく望まれた。3日間の山旅

だが、今日はワンティハイクなので荷物は
軽い。車が入れない荒れた林道を左に曲が
り、休憩所に着いた。早朝からやってきた
登山客が大勢いるが、休日に集中するのは
しかたのないことだろう。そんなことがあ
まり気にならない程、眼前に広がる紅葉の
美しさはやはり上信越なのだ。というのは
この年の関西の紅葉は冷夏の影響なのだろ
う、少々寂しい色づきだったからだ。そん

な夏のことなどおかないしに、秋らしさ
が気事にはそこにはあつた。落葉広葉樹が主
体の林の中に入ると、山は近くなって姿を
隠したが、広河原までは神秘的な散策気分
で、日曜の仕事に疲れた心からこだわりが
消えていくのがうれしい。広河原より尾根
に取りつく。急だ。光を照り返すブナの白
い幹と、光に刺めかれた黄色の葉の重なり
がまぶしい。やっと気を取り直して尾根
を乗っ越して左へ回りこんだ所で、突然雨
脚山の全容が現れた。白い岩峰をいくつも
持ち、尖峰を左に尖い木峰を右翼に、ゆっ
たりと私たちを待っている雨飾山の姿。見
事な光景だ。紅葉した大樹の間から、しば
し雨とれた。

雲霧沢へ下る。沢は白い大きな岩が重な
り、その間に水白濁かな流れがあった。上



雲霧沢より雨飾山の岩峰

流には岩の尖峰がすくすくとそびえ、深い青
空に幾月が白象深かった。沢からまた急な
登りが始まる。右翼には赤茶けた姥山が
見えはじめ、振り返れば逆光気味の高栗山
が青いグレーのシルエットで望まれた。主
稜線にでると目の前に日本海までの広々と
した光景が開け、鬼ヶ面山や鋸岳の海谷山
塊のギザギザした山稜が、まばらに散りば
められた雲霧の中に見えかきれていく。姥
山はわずかながら噴煙をたなびかせ、その
右翼に火打山や妙高山が頭をのぞかせてい
る。黒杉の長いゆったりとした笹の被覆
を山頂へ向かう。人の多い山頂には少々う
んざりだったが、こちらも4人。その中に
割り込んで急事の準備をした。

同じ道を下ったが、霧池林道に歩かず
に遊歩道を登り、ブナ林の美しい道を歩いて



雨飾山行経路図

鏡池にでた。池の周囲は紅葉がとてもしや
かで、空の池の青色との対比がきわだって
いた。
乙見山に越えの林道で世々峰へ行きたかっ
たが、通行止めだった。しかたなく白馬村
から鬼龍里、戸隠を迂り野原湖の近くに出
て妙高高原に入った。ずいぶん時間のロス
があり、夜も遅くなったが、鬼ヶ峰のキャ
ンプ場は広くて好きな場所だ。テントを張る
ことができた。

急降を済ませ、周りのテントも静かにな
り、他の3人は眠りに就いたというのに、
なぜかひとり眠れない。今日の快晴の中
のすばらしい雨飾山の全容にまだ興奮さめや
らずなのだろうか。テントの外に出て木立
が遠慮に黙っているキャンプ場を管理板へ
行ってみる。缶ジュースを飲みながら、水々
の暗い枝ぶりとその間からぞぞと透る星
空を見上げた。はるか新潟県にいたのだ。
幸せだと思いつながら、山の夜の空気に
身を染めた。

妙高山に登る朝も快晴だった。笹ヶ峰キャ
ンプ場は黒龍山がくっきりと望まれる所だっ
た。これから登る妙高山は近すぎて、大斜
面が青空にせり上がっているという印象だ。
黒沢を渡り尾根に取りつく。稜線まではテ



妙高山頂（後ろは火打山）

ントなどすべてを上げなくてはならないので荷が重い。しかし紅葉の鮮やかさは雨降山を上まわるすばらしさだ。空の青さも昨日より深みをましている。

富平原平の分岐は右の黒沢池へ道をとる。左へ大きくまわりこんで行く。富平が大きく広がって草原に出た。樹間の道ばかり歩いてきたので、大胆な変化にめまいがするほどだった。木道を踏む雑音が静し

て、樹林の山の山に池が点々と見えはじめ、いちばん奥に黒沢池が現れると、ヒュッテは右に上がった所に建っていた。賑やかなヒュッテ前で昼食を済ませ、荷物をデキ、ひとっだけにとめて、妙高山に登る。

大倉薬師に着くと、逆光気味の妙高山が大きく高くそびえ、澄子をゴツゴツと盛り上げている姿に対面した。庄厳な山姿だった。外輪山があるため、登山口よりずっとその姿を隠していたのだ。今日の道は、先程の黒沢池の出会いに続いて変化の妙が味わえる、なかなかおすすすめのコースである。これも天気が良くて、くっきりと鮮やかに風景が展開するから衝撃が大きいのだろう。爽々としたトラバース道から、左下の樹林越しに長助池の温泉が見える。あたたかな別天地のように望めるが、時間がない。

妙高山へぐいぐいと登っていくと、大きな岩が累々と重なった独特の異様な光景になり、山頂部の台地に出た。ピークが三つ程に分かれ、三頂点を過ぎて一番奥の最高点にたどり着く。頂上部の風景は生物の住めない崖のようだ。岩の深みに残るわずかの雪を固めて、ウイスキーに入れ乾杯する。

南側は気持ちの良い広がりを持つ斜面だ。黒沢池に戻り、荷物をまとめてひと山越えて高谷池をめざす。寝た体にも膝関節は酸い。高谷池は黒沢池より山頂から山に囲まれているが、こちらは谷間の土に染みている感じで、陽気にさせられる。夕方の光が池の周りの紅葉を一面華やかにさせ、池際は光ってきらびやかだ。

テント場に荷いたのが遅かったから、空いている場所は池の隣だけだったが、夕日を浴びた火打山を見上げるすばらしい所だ。しかしその後は雨。それも強い雨だった。湿原特有の水の滲み込みにくい土の上を雨水が流れ、次第にテントの中にも入り込んできた。私は池から一番近い場所なので大丈夫だったが、池側の人のシュラフは完全に水を吸い込み、寝るどころではなかった。夜を徹して濡まってくる水をテントの外に出し、シュラフを絞った。ちよっとしたパニック状態で、装備が悪かったら体調を崩してしまおうところだった。私はきのうに続いて、眠れない夜を送った。二山共すばらしい山行ができたのだし、4人が満腹でいたのもう明日は早々に退去しよう、下山して早く温泉に入ろう、そんな気分だ

まとまりかけていた。

翌朝暗いうちから朝食をつくり、体をあたためた。雨もやんでテントは静かになり、体があたたまるも風気も出てきて、一息つくことができた。ちよっと仮眠したつもりだったが、テントの中の明るさに驚いて外に出ると完全な世空だ。火打山には朝日があたっていている。もう下山と決めていた体を元に戻しづらいい人もあったが、火打山に登ることに決める。

妙高山の北面は霧水で白く輝いている。天狗ノ庭では波のない池原にくっきりと火



火打山・妙高山付近略図



天狗ノ庭より火打山

打山の影が映り、うっとりとするほどの美しさだ。火打山の登りの尾根にのると、そこは霧水の世界だった。きらきら輝く霧水のトンネルを滑りながら快調に登る。睡眠不足のはずなのだが、雲空の下、すばらしい山頂がすぐそこをえは力百倍になるから不思議だ。最後は新雪を踏み頂上に立った。

北アルプスが鋭い形で連なっていた。なぜか北アルプスには雪がない。昨夜の雪は北アルプスより500mも低いここだけに降ったことになる。新雪をかぶった山頂に

立ち、4人は喜ぶ顔をした。高谷池ヒュッテに泊まった人々は荷役で帰って帰るしかなかったと不満を口にしていたが、私たちは大満足だった。あの夜があったからこそ一層太陽の有難さを感じて、幸福感に浸ることができたのだ。

変化の多い、印象深い山行だった。

（平成8年10月9日・10日歩く）

- △コースタイム 妙高山登山場（2時間）高谷池（1時間30分）富平（20分）雨降山（1時間40分）鎌池林道（30分）鏡池登山場（2時間30分）富平見平（40分）黒沢池（2時間）妙高山（1時間40分）黒沢池（1時間10分）高谷池（1時間40分）火打山（1時間）高谷池（2時間30分）鏡池登山場
- △地形図 2万5千1面節山、妙高山

図文社「12彩高・百題」



紅葉の陸奥の山・ひとり旅

秋田駒ヶ岳より乳頭山縦走

東北

酒井賢治

深田久弥や新川次郎の山岳ものを要説する「ほうで山岳探険小説のおもしろさを知り、以て探険小説一、長井健、太田圃三、梓林太郎などを手あたりしだい読むようになった。

神秘的な山を殺人現場やアリの巣にみたてることにはいくぶん抵抗を感じるが、山や深谷の自然描写や行程を読むと、現実の山行と交錯してとても共感を覚えてしまう。そして興味ある最後のフンデン返し……

最近読んだものに太田圃三の『霧殺水脈』があるが、この小説の舞台である秋田駒ヶ岳には、山溪のカラー版『日本の山』に異域の美しい女岳への思い入れもあり、機会

があれば登ってみたい山だった。それにこの辺りには乳頭山温泉などのひなびた温泉があるのも大きな魅力だ。しかし、東北はあまりにも遠く、費用もかかる。そんな折、所用で秋田へ出張の機会があったので、これに合わせて久蔵の秋田駒ヶ岳から乳頭山を縦走、山溪のいづれにもつかり陸奥の秋を満喫した。関西からは少々逆方向になるが、お許し願って旅行を綴った。

10月20日、秋田市での所用を終え、16時発・盛岡ゆき特急「たざわ線」に乗り、盛岡本郷を東へ走る。大曲より列車の進行方向が逆になり山沢温泉にはいると、東に釜淵を沿ひる和賀山脈の山々が迫り、いつものように私の目は山に向いている。

10月20日、秋田市での所用を終え、16時発・盛岡ゆき特急「たざわ線」に乗り、盛岡本郷を東へ走る。大曲より列車の進行方向が逆になり山沢温泉にはいると、東に釜淵を沿ひる和賀山脈の山々が迫り、いつものように私の目は山に向いている。

横谷への登越から見た女岳(左)とガスかかる男岳(右)、中火に出沢湖がみえる



17時30分、すっかり日が暮れた田沢湖駅につき、駅前の雑貨屋で買い物をして乳頭山温泉ゆきのバスに乗りつく。バスは暗い湖霧に灯り、ゆるい田沢湖群を登出し、18時過ぎ高原温泉につく。湯桶と温泉臭が漂う坂道を登り、今夜の宿・国民宿舎駒ヶ岳荘にはいる。小説の主人公でポライターの多摩直・約湯沢三郎もここに泊まっている。部屋に酒されると、先日電報を送った山用員が部屋の隅に置かれていた。普賢菩薩の毛氈を手にさせ、夕飯をこりゆつくりと露天風呂



秋田駒ヶ岳・乳頭山村近略図

邑につかる。空を仰ぐと星がちらほらと輝いている。明日の晴大を願って22時寝床にはいる。

21日、午前中時睡目をさます。積子を閉けると奥の背が赤茶色の雑木林が広がっていた。先登った奥美濃の三間ヶ岳も快晴で、このところ大抵には思われていたようだ。朝霧にはいると眼下に田沢湖の丸い湖面が広がっていた。

6時30分、予約のタクシーで駒ヶ岳山荘へバス道を少し戻った田沢湖温泉駅台の前から左へ曲がり、駒ヶ岳八合巨への道路を走る。紅葉したダケカンパやナナカマドの樹冠のヘアピンカーブをいくとも曲がり高度をあげて7時30分八合巨登山口につく。休憩小屋の前から右へ大きな指環峰に抜い、駒ヶ岳への登山道にとりつく。長い笹が繁さがよく登難された明瞭な道をくぐり登って高度をかせぐ。秋田駒ヶ岳は独立峰ではなく女岳と男岳、女流、幼女などのピークを合せた総称で、この道はドーム状の最高峰・女目岳の北面から西面をからむ道だ。こ

れといった谷もないのに道に沿った太いドニールパイプからはこんこんと湧き出る水の音がする。30分も登ると北から西方向の展望が開け、田沢湖高瀬や乳頭温泉の深い樹海がなだらかに裾を広がっている。やはりこの山は典型的なコニール火山だ。やがて登山道が赤土になり広い平坦地の「赤土の広場」についた。ここは遠峰片倉岳展望台といわれ、眼下に驚く来る田沢湖、遠く八幡平方面や霧ヶ岳の山々を望む。広場からアミダ池にかけては、前方に男岳の雄姿を見ながら、女目岳の山肌を回りこむように火山礫の散らばる幅広い平坦な道をゆく。左右は花畑でロープが張られているが、すっかり枯れ草になっていた。花の季節はさぞかし美しいことだろう。

アミダ池は1500mの高地にある大きな池で、木道で周辺を散策できようになっていた。池の西端から道筋に従い男岳への登口の多い道を通り、標高との鞍部から右へ右鞍をたどり、7時30分男岳登山口につく。不安定な方位磁石と羅針盤を頼りに、展望は昨夜の子連れで、西北に連なる岩手と秋田の奥羽山脈を隔て岩子鼻樹は厚い岩層に閉ざされ岩子山の頂上部分が突出していた。逆に秋田県側は快晴で眼下に鏡面の



湯森山への縦走路より秋田駒ヶ岳をふり運る

する。縦線にのり途中で右へ滝の上温泉へのコースを分け、左に岩壁を仰ぎながら乳頭山頂上の岩壁を登り13時すぎ山頂についた。今朝から縦走してきた山や縦線を望みながら熱いみそ汁を作り、山荘に立てのにぎり飯をばくついた。背後には八幡平に垂なる長大な尾根がくねくねと続いている。午後のガスで岩手山はすっかり姿を消してしまった。

13時30分、乳頭山出発。道中の道を下る。途中から丸太の階段道となり、田代宿分岐より左、乳頭温泉へぐんぐん下る。振り返るとその名の通り乳頭のような乳頭山が真っ背な空にラックツ色の山肌を輝かせ、私の気持ちを和ませてくれた。やがてブナなどの樹林帯に入り高圧を下げると、周りは一面の紅葉で私までが染まりそうな感じであった。小さな滝音がすると沢の源流の水場につき、冷たい水を飲んで一息ついた。ここからさらに下り暖黄臭が漂う一本松の温泉場にてた。谷間の渓流に沿って湧き出る温泉だが利用価値は少ないようだ。谷を渡り一本松沢右岸に沿って下ると、やがて谷は大きく開け先達川冷水ダムを左にみてすぐ下流の橋で左岸に渡る。対岸のガレの山肌は大釜の温泉蒸気が白煙をあげていた。

道端にゴキウホ湧き出す熱湯をみると、すぐそこは昔昔の小屋が建つ乳頭温泉温泉の秘湯・黒湯温泉である。ここからすぐ橋を渡り14時30分山腹のいで湯六郎温泉についた。辺り一面紅葉に包まれた露天風呂で汗を流し、冷たいビールで喉をうるおした。ルポライター・約部辰三郎はここで一泊しているがサラリーマン稼業の私はもうはいかぬ。仕事のため明朝までに帰宅しなければならぬ。この時間だとJR田沢湖、盛岡と乗りついで鎌倉にて、大塚行き夜行快速バスで帰るのがもっとも早い。15時45分乳頭温泉駅を後にする。いつまでも姿を消さない秋田駒を私はバスの車窓から見送った。今日一日が一人が独占した極楽の山ひとり旅だった。

(平成5年10月21日歩く)

△コースタイム▽

駒ヶ岳八合目(45分)アミダ池(15分)男山(30分)女目岳(30分)横岳(50分)湯森山(1時間)荒森山(25分)千沼ヶ原(40分)乳頭山(1時間)温泉
△地形図▽昭文社「38八幡平・岩手山・秋田駒」

ような田沢湖。周辺に火口をもちつた谷、ドーム状の女目岳と高く光るアミダ池、そして遠く大石岳、大横岳など山頂山塊の山々が重畳と盛り上げていた。

8時、男岳をあとにしてアミダ池に下る。木道を伝って池を散策し、今度は左へ女目岳への道に取りつく。頂上の丸い木杭がならべられた階段を登りまわって8時30分女目岳頂上につく。ハイマツ帯に入らぬようにここにもロープが張られていた。最高峰だけに展望は男岳に劣らぬ素晴らしい。860度全周だ。北東方面にはこれから縦走する幅広い高原状の旧湯森原上に湯森山、荒森山がやわらかに盛り上がり、乳頭山に連なり、向こう一面の雲海に岩手山頂上部が鳥のように浮かんでいた。ここでパンとスライプの朝食をとる。大展望に満足し9時山頂出発。アミダ池に下り立派な遊歩小橋を左に見て横岳への池木帯を登る。縦線にのると岩手側の谷から薄いガスがわき、女岳や五百羅漢の岩場が不気味にかすんで見えた。横岳より燃の森にかけては油木とハイマツのプロムナードだがガスのため視界はなし。燃の森からロープが張られた幅広い道を少し下り、左に元の八合目へ出るルートを見すこしぐんぐん下る。途中から左右

縦ヤブの細い道となり、湯森山との鞍部にて道中の滑りかたを渡る。縦線をうろおし一息ついた。道端に石筋の混じる縦走路を緩やかに登り返すと、一瞬ガスがまき散らした駒ヶ岳の山々が頭を覆っていた。10時20分湯森山頂につく。惜しいことにまた岩手側からのガスで展望なし。10分待たが展望開けず、しかたなく山頂出発。次の荒森山へ、湯森山北面をだらだら下りまわった所で、ありがたいことにガスが晴れワイヤな視界が広がった。高原状の山裾一面がハイマツなどの緑の絨毯におおわれ、所どころに池塘や温泉、岩塊が散らばり、お菊を伏せたような荒森山の頂上まで一本道が長々と続いていた。遠く平の温泉をすぎると荒森山への縦やかなスロープを登ってゆく。途中に露出する大石。前記のチラスで一服する。辺りは前庭のような美しさでまさに東上の楽園だった。ここから見る湯森山は比良のホッケ山辺りから見ると全然山のように見えた。

ハイマツ帯の山肌につけられた縦走路を登って11時30分乳頭山頂につく。この山の展望はじつに雄大。北は頭に岩の壁をつけた鳥帽子状の乳頭山、遠く八幡平の山々、東に頂上部をガスに消された三角山とアオ

モリトドマツの樹林に囲まれた千沼原のような千沼ヶ原の温泉、南西に田沢湖や田沢湖温泉をとりかこむ山々が現れ、いいに広がった。

11時50分、明るく開けた荒森山東面を下ると、すぐ左に乳頭山への縦走路を分け、直ぐ千沼ヶ原へのすべりやすい道を下る。木道をたどりアオモリトドマツの樹林に入りこれを抜けると、突然目の前に千沼ヶ原の池塘、温泉が広がった。大小さまざまな池塘が散らされ、二面に広がり、これらをつなぐように大釜が設けられていた。自然が作りだした奇跡にただただ驚かばかりである。この温泉をすべて探訪するには今日は時間がなく、途中で引き返した。指車線に従い再びアオモリトドマツの樹林をぬけ荒森山北面のまき道をゆく。南白沢原の湯原の枝谷を越し、乳頭山への縦走路に合流し、高原状の山裾プロムナードをゆく。所どころで小さな温泉が点在し、雪空を水面に映していた。やがて正面に乳頭山が灰色の岩壁を垂直に落とし立ちほだかる。この山は昔「魚目」では魚目山と呼ばれた通り、頂上部に釣鐘状の岩コンをもちつたスピトロイア火山だ。遊歩道をすぎると岩壁の坂道となり踏み跡をさぐりながら急登

白山

2702

浅野孝一



山頂にある白山神社について、「大日本地名辞書」は「白山神社 旧稱白山本宮、また妙理大権現と云へり、御前山に在り。按に白山は泰澄の開けること実なるべし、三州志に欽明帝の御手に白山洞ありと論ずれど採り難し。延喜寺石川郡白山郡神社は下白山にて此にはあらず、従ひて白山本宮は式外の社と知らる。祭神は釈尊に伊弉諾尊とあれど、崇は降の詔にて女神なることを著し、偽作風土記の大山祇は勿論、通証の御理媛も兼強の説のみ、いづれも採り難し。」云々とむずかしい事を述べている。中世にあっては修験道の霊山としてあがめられてきた。白山一里町から山頂へ通ずる登山道は加賀押定道と呼ばれ、室堂はかつての修験道行者

北アルプスや南アルプスの山頂から、はるか西方に加賀の白山を占つけると、「あつた白山だ」と思わずつぶやいてしまつ、そういう意味では、私達関東に住む者にとつても、白山は身近な存在の山である。

早速、「日本山岳志」の白山の項を見よ。「白山(別稱越白嶺、芙蓉峰、天山、長白山)加賀國能美・石川ノ二郡越前國大野郡飛騨國大野郡二階ガレ、能美郡尾白村大字尾添コリ九里、白峰村字市瀬ヨリ四里十八町(今逢澤市コリ)二十里二十三町、越前國大野郡勝山町ヨリ十五里八町」ニシテ其山頂ニ達ス、標高八千八百六十七尺」と説明している。

白山は白山火山脈の主峰として知られて

いる。それ故、多数の峰に分かれている。剣ヶ峰(2060m)、御前峰(2702m)、大夜峰(2684m)、別山(2339m)など、また山頂部には大小七つの池(火口湖)がある。最も大きな翠ヶ池、ついで紺屋ヶ池、池ヶ池、血ノ池、五色ヶ池、百姓池がある。夏になると付近一帯に高山植物が咲く。ハクサンコサクラ、ハクサンフウロ、ハクサンシヤクナゲ等である。

『日本地理要』は白山のことを、「北陸第一ノ高山ニシテ、皇國三山ノ一ト云、越前・美濃・飛騨ニ跨ガレ、三峰アリ、南ヲ別山、北ヲ大夜、中央ヲ御前ト稱ス、御前最峻ク、絶頂ヨリ大州ヲ瞰スベシ、直

立凡八千四百八、御前峰後又剣峰アリ、其状五剣ヲ植ルカ如ク、積雪四時盡キズ、故ニ總ヲ白山ト稱ス」とある。

山頂にある白山神社について、「大日本地名辞書」は「白山神社 旧稱白山本宮、また妙理大権現と云へり、御前山に在り。按に白山は泰澄の開けること実なるべし、三州志に欽明帝の御手に白山洞ありと論ずれど採り難し。延喜寺石川郡白山郡神社は下白山にて此にはあらず、従ひて白山本宮は式外の社と知らる。祭神は釈尊に伊弉諾尊とあれど、崇は降の詔にて女神なることを著し、偽作風土記の大山祇は勿論、通証の御理媛も兼強の説のみ、いづれも採り難し。」云々とむずかしい事を述べている。中世にあっては修験道の霊山としてあがめられてきた。白山一里町から山頂へ通ずる登山道は加賀押定道と呼ばれ、室堂はかつての修験道行者



逆の宿泊場であった。今でも夏期になると行者に連れられた途中登山者の一行に会う。現在の祭神は白山比咩大神と伊弉諾尊、伊弉册尊である。北麓の鶴来町にある白山神社は加賀一ノ宮で、全国に約三千あるといわれる天社をもち、白山信仰が伝えられている。

私達は東京駅発一番の新幹線に乗車、名古屋発8時5分の名急バスに乗った。この急行バスの乗客は、私達12名の他に2名のみであった。途中、彦根と夕立のため、平瀬温泉へは予定時間よりだいぶおくれて着いた。宿はバス停近くの民宿「助九郎」、部屋は広く食事もうま、大きな露天風呂に満足した。

2日目、夜中からの雨は止んでいた。朝風呂に入っている朝焼けがあり、いやな予感がした。平瀬温泉から乗合のマイクロバスで白水湖の登山口に向かう。ダムサイトには白水荘と大白川遊覧小屋がある。大倉山への登山道は平瀬道といわれ、ブナ林の間にジグザグの道がある。大倉山付近になると、右手に深い大白水谷が見え、その頭端に山々が見えてくるはずだが、雲の中であつた。

大倉山遊覧小屋でしばらく休んでから、ゆるい大白尾根をたどる。登山道の右手に大カンクウ感嘆が見えたころ、沛然とした降雨と雷があつた。山の斜面は一面の濡れとなり、逃げ場もなく、雨にうたれ、濡れ行く手がわからなくなったが、前方から20名ほどの構中の入道が下りてきた。すぶめれとなった白衣の入道とすれちがった。

ゆるくなった登山道をたどり、ほうほうのていで室堂に着いた。朝食を食べているうらに雨も止んだので、ザックを室堂に置いて御前峰へ登ってみたが、霧で何も見えなかった。

盛夏となると短日入道雲(噴乳雲)がわきあがり、午後には夕立と豪雨に見舞われることが多い。夕立は雨具で防げるが、豪雨はまことに危険で、アルプス等の露岩地帯は特に危険な場所だ、今までも遭難事故が数多く発生している。記憶に新しいのは西穂高岳連峰の独逸付近の高校生の遭難事故である。

露岩地帯では遭難物がなく、身を落雷から避ける箇所がないから大変である。白山登山で遭難事故を避ける為には、早朝の2時から3時頃に起床して、未明の登路をヘッドランプを頼りに、涼しい朝の空気の中心を登頂し、午後7時頃には次の山小屋か樹林帯に入れるよう行動することが重要である。又、気象情報に注意して行動することも必要である。方一、夕立に会ったら低地の低水帯に逃げ込むが、腹はいになつて、ビッケル等の金属器を身からはなすことだ。

野外活動に伴う危険と対策

坂井 久光

風景に囲まれて素晴らしい旅との出会い。

大阪駅前第4ビルに

大阪支店オープン!

創業25周年特別企画

「チャーター便で行く
ベストシーズンのネパール」

「JAZで飛ぶヒマラヤ」
今秋、日本初の直行便がヒマラヤの空へ向けて飛び立ちます。ご案内するのは信頼と安心の翼「JAZ」。日本航空をバックボーンとする確かな信頼性が快適なフライトをお約束します。「おかげさまで25周年」皆様への感謝の気持ちをこめてご案内いたします。

関西新空港発着

◆11月12日(出)～11月20日(日)

成田空港発着

◆11月19日(出)～11月27日(日)

- アンアブルナ・ダウラチ・展望トレック 9日間 ¥286,000
- エベレスト 街道とシェルパの里 9日間 ¥318,000
- ホテル・エベレスト・ビューとボカラ 9日間 ¥345,000

全19コース、お早めにお申込み下さい。

山岳会、山の仲間で作る、 オーダーメイド・トレッキング

パッケージツアーの出発日に都合が合わない方や、山岳会などの仲間同士でオリジナルコースを作り記念山行を予定されている方、是非ご相談下さい。旅行のプロが皆様のご希望をお手伝いいたします。

— お取り扱い例 —

- ネパールヒマラヤトレッキング
- ヨーロップアルプスハイキング
- ニュージーランドトレッキング など

資料のご請求は
☎0120-777802
●全国どこからでも無料です

マウンテンラベル ツアーデスク

主催 ヒマラヤ観光開発株式会社 運輸大臣登録一般旅行業1014号

東京 / 〒105 東京都港区新橋3-26-3 ☎03-3574-8880
大阪 / 〒530 大阪市北区梅田1-11-4-500 ☎06-346-0360



近付堂屋

白山奥宮に参詣してから室堂に戻った。途中、登山道の左右にはクロノリが咲いていた。私達は雨中山荘に予約していたので、霧のなかを歩いた。霧のため四週間の眺めはなかったが、高山植物の咲いているゆるい斜面を下った。室堂は混んでいたが、こちらは空いていて、一部屋もあって濡れたものを乾かし、暖かくなってはった。

3日目、霧のなか、夜は明けた。広い斜面を横切って、砂防新道を下った。霧のなかをそくそくと登山者が上がってくる。登山道はえぐれ、岩がごろごろ歩いて歩きにくかった。昼前に別当出合いの駐車場に下り、バスに乗って市ノ瀬で下車、白山温泉「永井旅館」に入り、熱い温泉につかってから二階の部屋でくつろいだ。

4日目、同行の女性達は一番のバスで出

発、金沢市内見物に。戻った男性達は9時30分のバスで金沢へ出て、金沢駅前発13時15分の西武バスに乗って東京へ向かった。この日、北陸地方の梅雨明けが発表された。

(平成3年7月25日、28日歩)

▲参考タイム▼
7月27日 室瀬温泉6:00(マイクコバス)
|| 白水湖登山口6:25<40>大倉山遊覧小屋9:25<40>室堂センター11:40<13>00 御前峰13:40<55>室堂センター14:20<30>雨宮山荘
7月28日 雨宮山荘8:15 基之助遊覧小屋8:55<9>15 別当出合バス停11:00
△地形図▽2万5千|| 白山・加賀一ノ瀬

新刊

近畿の山 日帰り沢登り

中庄谷 直・吉岡 章著 四六判・二〇〇〇円
夏山の醍醐味は沢登り。本書ではハードな沢を除き、のんびり水とたわむれ、遊べる比較的易しい沢を、詳細な地図付きでガイド。

新刊

初登山 今西錦司 初期山岳著作集

今西 錦司 著 四六判・二八〇〇円
京都北山は罪なるかな... 15歳の富士登山から四段まで、京一中、三高、京大時代の山岳著作を未発表原稿も含めて網羅。

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2
☎京都 075-751-1211 〒606

野外塾

●「冒険大賞」のすすめ

関西アウトドアスクール
校長 二名 良日



夏を境として、色々なオモシロイ話が飛びこんできましたが、9月10日から今年の後半に関係するものとして「冒険大賞」の話があり、新ハイキング読者の皆さんにも、チャレンジャーのチャンスあり!!と思われまますので、ご紹介することにします。

ドイツの自動車会社にOPELというのがあり、ドイツ製の自動車というと、大型で重厚な感じのベンツや、小型で親しみやすい印象のフォルクスワーゲンなどが知られていますが、ヨーロッパ最大のメーカーであるうえに、ヒマラヤの無酸素登山や、南極点の徒歩探検などで、超人ぶりを発揮している冒険登山家のメスナーを、長期的にスポンサーしている会社であり、合理的な流線デザインや、高度な排ガス処理技術などを駆使して環境問題にも最大の注意を払っている企業……として、今年度から日本で「オベル冒険大賞」を発足させたい……とのことでした。

外資系の一企業の販売PR戦略……と片付けてしまえば、唯それだけのこと……なのですが、外国では国が冒険や探検を支援するような例があるのに、我が国では海外遊覧の若い隊員たちが、自己資金づくりの過労アルバイトのため、出発の前に既にボ

ロボロに疲れ果てている（これに該当すると思われる実例としては、グウラギリに挑戦し、高山病で倒れた友人の永沼隊員は、登頂の準備もかかやあらん……）というほどの風流のモリかつたのですが……）ような現状を一步前進させる契機にもなるのではという声もあり、歓迎の機運の中で、4月の20日にマスコミ・リリースが行われました。

ホテルニューオータニで行われた記者発表には、六〇社近い報道陣が詰めかけ、立見が出る状態で、この企画への社会的な関心の高さが感じられました。

運営委員には、スポンサーや広告会社などの思惑が絡んで、多くのタレントさんたちの名前がノミネットされていましたが、最終的には、早大探検部で小生の一年先輩にあたる直木貴作家の西木正明氏を委員長格に、登山界からは植村謙一、今井通子さん、ドコモメンタリーカメラマン界からは、男任の若谷光昭氏、女性の吉田ルイ子さん、子供・教育の分野イメジキャクターとして戦手のアグネス・チャン、そして後援媒体（マガジンハウス社「スター」誌）のイメジ俳優の時任三郎氏……などの面々が選ばれ、それぞれの冒険観や期待や抱負な

どを披露しました。
アグネス・チャンや時任三郎氏などは、「こうして冒険と……」という声も聞かれています。いわゆる「冒険大賞」の他に、「こども賞」「チャレンジャー賞」の部門がある……という実行委員からの説明に、そのユニークさを納得する記者も多かったようでした。

その実行委員に小生が選ばれたのは、友人でアウトドア＆フィッシング・ライターの新西賢博氏の出版社（ワールド&ストリーム）のアウトドア誌を編集（が事務局長を引き受けたと、西木氏らとの協議し尚書副を期待されて……）とのことのように



冒険大賞の記者発表会

が前記の通り、本賞の特級として、いわゆる冒険・探検分野に当たる「冒険大賞」と、例えばシニアシルバ世代とか、障害などを抱持の方がなどが、それぞれの状況で当回事業などに貢献する……というようなユニーク部門の「チャレンジャー賞」として小・中・高校生などの青少年を対象とする「冒険スカラシップ賞……」の三部門を設立した点、特にその②・③がこれまでにない試みとして、評価が高いようです。

資金については、今年度は①がトロフィーと百万円、②がトロフィーと八〇万円、③がトロフィーと賞品（同額相当の旅行券など）という形に決まっています。

但し、オベルの代表自身が、出来れば一回きりでなく継続したい……との意向を漏らしておられたようです。西木考委員などから、文学賞一千万円（江戸川乱歩賞の時代を考えて、賞金額のアップを考えるべき!!）との声も出ていました。

それらも、全ては、初年度に、数多くの熱烈な応募反応があればこそ前提です。仲間グループでの参加もOKですので、ぜひともふるって参画のほど、よろしくお願いを申し上げます。

応募・選考方法については、事務局側が

手まぐりで、7月末ノミネット・月レポーター審査12月発表の案を考えていましたが、冒険・探検には事前登録方式そのものが似合わない……との声もあり、今年度については既に発表のこの方式でやるもの、9月頃までに計画案などを出してくださいれば良い……という方向で進んでいますので、新ハイキング読者の皆さんも、ココロのチャレンジャーや、冒険・大探検プランを、数多く提出して、賞金と名誉とを「両手に花」と維持して下さい!! 事前審査で、皆さんのご活躍の成果を認めていただくことを楽しみにしております。

この他にも、黒部アルプスをワールドとした「日本探検学校」の設立の話や、世界第四位の長さを誇るシノ川などを持つ極東ロシアの新国産共和国サハ（旧ヤクート共和国）との探検交流の話も、大きな盛り上がりを見せています。

青年の船などで、多人数で駆け足的に観光交流をやってきた方式を改め、血太子ご成徳記念第一回事業として、少人数・長期滞在・体験型の青年海外派遣を総理府がやることとなり、9月から同長として出かけていただきます。体験型野外塾、しばらく休ませさせていただきます。

中の湯から焼岳

阪本健治

北アルプス

上高地から焼岳を望む



北アルプス唯一の活火山

「乗鞍火山群の焼岳(焼岳)が、兩三年来猛烈に噴火を開始し、一個の旧噴火口と二個の大なる旧爆裂口から数十の大小噴火孔を生じ、朝日夕日にこの付近の諸高山のはだを紅に染に染めてゆく姿は、地球上の多くの大山原に恐らく見られぬところであろう……」と、小島篤水が「日本アルプス」の中で焼岳の印象を書いている。つづくは天正十三年(1585)からたびたび噴火を繰り返し、大正四年(1915)の大噴火で梓川をせき止め大正池をつくった。火山としては老衰期に入っているとはいえず、焼岳は昭和二十七年(1952)にも爆発、頂上付近では今なお多くの噴火孔

があつて、北アルプス唯一の活火山である。昭和二十七年の爆発後、頂上付近の立ち入りが禁止されていたが平成三年一部解除になり再び登山者が多くなつた。焼岳へは上高地起点がほとんどであるが、中の湯が安房峠のトンネル工事で四シーズン休業に入り、中の湯にくだつて一浴の楽しみがなくなつた今、行旅時間は少し長くなるが、中の湯から登つて上高地にくだり、上高地温泉で一浴するコースをおすすめする。これは中の湯が休業に入つた平成五年秋に歩いた記録である。

梓川を渡り宮本武蔵と塚原卜伝が試合をしたという伝説がある岩壁のほつた温泉、上佐の湯入り口を右に見て、安房峠へ少し

登ると小さな流れのかたわらが穂岳登山口である。ここで朝食をとつても時50分スタイクする。すぐ流れから分かれ右へヘア、カエデなど赤や赤と紅葉の樹林帯を初っぱなから急なつま先登り約30分、雪りが一服して左への水平道となる。このトラバースも15分ほどで第一ベンチ(7時30分)到着。ここは真新しい道標には焼岳まで3時間30分と記されていた。

右へ再びうっそうとした樹林帯になる。途中でブナの木の間越しに姿かたちのよい霞ヶ岳が望まれた。虎ロープのある急登になつて、沢の産頭状の湯れ沢を登つてゆ

く。昔の低いサヤと若いダケカンパの林となり、ほどなく赤褐色に紅葉したカラマツが現れはじめと境界が開ける。

鮮やか赤い葉のナナカマド

「やんどう平」を新しい道標が立ち、シラカバの水で作つたベンチがある小台地。小さな池もあり休憩にもつてここの所(標高約1950m)(8時55分)9時5分。頂上、焼岳に続く広い尾根、右には焼岳北登山口から登山する道標の突起が鮮やかな色で出る。残念ながら頂上、稜線付近はガスの中であつた。池標を抜けるとすくくマザサの間につけられた道の急登となり、盛りあると再び台地になる。森を黄色に染めたシラカバとナナカマドの赤い葉とのコントラストが鮮やかである。左へトラバース気味に登つた。再び湖沢の登りとなり10



分ほど沢を抜け、眺めのよい台地にまでさらに登登してゆく(標高約2000m)尾根、森林限界であつた。真つ正面の焼岳は相変わらずガスの中であつたが、霞ヶ岳から六郎山への稜線、焼岳から続く白谷山、丸いマカンダナ山、安房山が山肌を紅に染めた。まとい、その上に乗鞍岳が見えた。

沢いっぺいを大きく浸食跡をさせている下湖沢の線にでる。頂上から南東にくだつてくる尾根の下湖沢湖をトラバース気味だ。小刻みにシタザクをきつて高度を上げてゆく。上から中年の単独行者があつた。コースの状況を確認すると、湖口一番「鉄バシゴ」がこわかつた」と。頂上は? 「風が強く、寒くて何も見えなかつた」と鉄バシゴがこわかつたことだけを強調していた。

尾根から下湖沢湖頭の高さを登るようになる。時折標高の匂いが漂ってくる。ガラの登りがきつくなつて疲れが徐々に加わつてきた。中の湯から4時間立くなる。そろそろ登程では……と頭うつっていると、湖い霧の中になつたり包み込まれてしまった。2人の登山者がくたつてきた。「いまそこに雷鳥がいた」と、名を白濁である。先ほどの中年登山者も四人のようであつた。われわれも雷鳥を捜し探し登つたが声

はずれと姿は見えなかつた。

硝室奥が鼻をつく雲の中の頂上

頂上直下を右にトラバースして急登、稜線にでる。左は登山禁止の三角点のある南麓である。ここは風と霧の中、今までの暑さが吹き飛んで、一瞬にして寒さに震えあわてて上衣を着る。風を避けて同側の稜線下で早く登頂(11時00分)20分)をとつて、北麓の頂上に向かう。北麓から中湖沢と上湖沢湖の中間に張り出した頂上の谷、硝室奥が鼻をつく湖りやすい斜面を急登すると頂上(11時30分)50分)であつた。ここも雲の中マザサの噴火口はもとより、定評の展望も望みえず、風が冷たく寒さに追われ、早々に頂を降す。

頂上近くにある噴火孔からはすさまじい勢いで硝室奥の水蒸気を放出している。湖から上湖沢湖の敷上部をくだり、トラバースして中湖沢への主稜になる。突然ガスを試み去つたように緑の中湖沢方面が見えだし、いい姿の登山者も見えてきた。もしやと思い振り返つて見たが、頂上付近はいぜんガスの中であつた。

危険地帯を示す合目(12時20分)30分)を過ぎると草原状となり、10分弱で旧中湖沢である。かつてここに焼岳八雲があつた

が昭和三十七年の噴火で吹き飛ばされた。

ゆく手の小ピーク、展望台に登る。登山禁止のころは、上高地からここまで登って遊歩を眺めて中尾へくだり、あるいは上高地へ戻っていたそうである。

展望台からシラビソの樹林帯に入り、左から右へ腰を描くようにくだると新中尾崎、かつては飛騨乗越といった。ここには昭和四十二年に再建された安曇川宮宮野小屋がある。二度目の本格的な昼食(12時50分、13時45分)とする。

霧沢岳や六百山を眺めながら上高地へ1時間近くの大休憩を終えて上高地へ向かう。峠からシラビソの樹林帯を抜けると、南に霧沢岳や六百山を目の前に望みながらクマナサの急斜面を滑光形にくだる。登山道は東向きを要え、その道の彼方には修行する梓川が見えた。しばらくすると岩壁の下に最初の鉄バシロ(14時)が現れる。真新しく頑丈でなかなか立派なものである。

トラバース気味にどんどんくたつてゆく突き出た鋭角状の岩壁に鉄の棧道が渡してある。右にすさまじい大崩落の上上崩沢(鉄沢ともいう)が望まれ、ほどなく右に向きを変え、上上崩沢の二つの支流源頭間

の細い支線に防護柵として木の板と虎ロープが張られた箇所をくだると、二つ目の鉄バシロになる。登りに会った人が、鉄バシロに恐怖心をいだいたという所かも知れないが、こわがり屋のかみさんも「頑丈に出発しているので大丈夫」という。噴火前に歩いたことがあったがバシロのことはあまり記憶にない。だがキーパーと今にも嫌れそうに、きしんだ背をたてていた棧道が思い出された。

再び上上崩沢沿いに、あるいは少し沢から離れたりして森林の中を、どんどんくたつてゆく。5合目(14時30分)、4合目と丁目石ならぬ道標を道へてくだる。4合目を過ぎたあたりで上上崩沢対岸に、真っ赤に燃えるカエテが一本、今にも落ちそうな位置で必死に耐えている。紅葉のすばらしきもさることながら、その生命力には脱帽である。と同時に浸食大崩壊の続く上上崩沢のすさまじさ、自然の偉業をつくづくと感じた。その間幾千石崩を監視しようとして、カエテの脇に無人カメラが設置されていた。

大崩壊の下、開けたところでと見上げを高さになった上上崩沢が大きいのかかってくるようだった。3合目(15時15分)20分を過ぎ、沢を渡り、割谷山の裾を大き

く歩いてゆく。シラカバ、ダケカンパ林、黄金色に染まったカラマツ、ススキも現れ始める。小沢を二つ三つ渡ると5合目、一般車の乗り入れ禁止の区間用(16時40分、50分)に出会う。後はのんびり15分ほど、高尾の紅葉を愛でながら今日の宿上高地温泉ホテルに向かった。

2日は多量に反してすばらしい天気、一年前(平成四年)の「休日の日」湖沢に入ったが、あの時は補給品は勿論、噴火岳、明神岳も二段築めで、遊歩も8合目から上は真っ白だった。今回は一週間後だが雪のかけらもない。

長年上高地に突っ走っているが、いつも人中、下山の通過点、のんびりと上高地を歩いたことがない。入山の少ない朝飯前に田代池、ウェストン湖などを、山々を見ながら散策した。錦秋の山行を締めくくるにふさわしい早朝の上高地であった。

(平成5年10月16日、17日歩く)

▲コースタイム▼文中を参照

▲地形図▼20万11高山

2万5千11笠ヶ岳、焼岳

明文社「5上高地・槍・穂高」

「6乗鞍高原」

阿波のクラシックコース

くもそう たかまる やま 雲早・高丸山縦走

尾野 益 大

四国

徳島県の地図を広げて、ほぼ中央にある三角点を結ぶと平べったい二等辺三角形を見いだすことができる。雲早山を頂点にして高丸・高丸の両山がその底辺を支えている。山頂が橋津部に属するのは唯一高丸山だけなのだが、雲早の五人の間では、三座を合称して「勝蓮三山」と呼んでおり、四季を通じそれぞれ訪れる人は絶えない。峰から峰への縦走も可能で、例えば、高城を出発して雲早のピークを越え、さらに高丸まで一気に進むとおよそ10時間の行程といわれてい。すなわち色に染えられた秋空の下、6人が進んだのは後半部の雲早・高丸ルートだった。

徳島県の地図を広げて、ほぼ中央にある三角点を結ぶと平べったい二等辺三角形を見いだすことができる。雲早山を頂点にして高丸・高丸の両山がその底辺を支えている。山頂が橋津部に属するのは唯一高丸山だけなのだが、雲早の五人の間では、三座を合称して「勝蓮三山」と呼んでおり、四季を通じそれぞれ訪れる人は絶えない。峰から峰への縦走も可能で、例えば、高城を出発して雲早のピークを越え、さらに高丸まで一気に進むとおよそ10時間の行程といわれてい。すなわち色に染えられた秋空の下、6人が進んだのは後半部の雲早・高丸ルートだった。

雲早から高丸山を望む(ピーク1334mから)



尾を登り、獅子から靴紐まで点検し終えた我々は、いよいよかかおてから念願の、ヤブ道ではあるが熟達者が好んで通う阿波のクラシックコースへと出発だ。道は早くも曖昧になる。迷え難い踏み跡、その上に左右から丈余のズスタクが覆いかぶさっている。「さすかに通過り、しかも初めてでも容赦してくれないな」とメンバーの誰もが

恐れいった。

最後最大級といわれた台風が、昨日まで暴れ回っていたのがまるでウソのような天候で、澄み渡る空だけが、この日の成功の力を運んでいると思われた。時折ツツシムが途切れ、雲がまだまだ近くに見え、かなり歩いてきたと思っていたのに、と振り返ったことを後悔したりした。あまり見慣れない南面の表情は、「無謀だ」とあざ笑っているようにも、「頑張れよ」と励ましてくれているようにも感じられた。

12800 所の標高へとすべりこんだ。勝浦郡上野町と那賀郡木造村の境と重なったこの尾根のはらは中間地点であり、曇晴ししが良ければ左手に旭の丸や奥の山が望まれ、右奥には高城、六郎など本県の中郡山岳が一望できたはずだった。少しは期待していた辺りの踏み跡はまったく利然としなかった。また車事情のよくなかった時代、土地の人はここを越えなかったのだろうか。勝浦川を溯り、この峠をまたいで第二代谷へ降りた先人はなかったであろうか……。そんなことを思いながら両側の斜面を覗き込んでみた。



眩い水洩れ日の光を心地良いさわやかな風が一服の清涼剤となり、わずかな休憩でも、森閑とした空気が体の芯まで染み込んでくるのがわかった。

た。木の梢越しに四週の間景も得られ「あれが、高城」「そこが、西三子」と、見える山を片々指から同定していった。さつた1時間ほど歩いた所で、日折す高丸山を指呼の間に見、また澄んで可憐なシヤクナゲの大輪を標高に描きながら息を吐く。出発してから4時間近くが費やされていが、思いのほか変化に富んだ山行で、なぜか皆疲れを覚えていない様子だった。3人の女性も当初の心配がまるで信じられないくらい元気だ、車中のかしましい空とまったく変わりなくみえた。周りを遊ばれていないため、同じ会のメンバーと約束通りトランシーバーで交信することもでき、素晴らしい天候とパノラマ、シヤクナゲの群衆などなど喜びを伝えることにも成功した。おおかた予定通りで、この後の日奥もついたこともあって、標を下るに時間は1日のうちでここが最も長かった。

いよ到着するはずなのだ。気持ちが一層高揚して、胸いっぱいにとろろんでくるのを不思議に思った。

木の根や岩角に手をかけて体を持ち上げる箇所も出てきたが、「長くは続くまい、あとわずかだ」という期待が、クライマックスの道標りに拍車をかけた。しばらく細の辺りまで出て再びツツシムに阻まれたが、5分の苦悶の末、6時間余りの行程にピリオドが打たれ高丸山に到着した。

湯去に何故か立ったことのある狭い天辺に、2人の登山者がいたが、変てこな方向から突如出現したパーテーナーをみて目を白黒させていた。要所からヤブの複雑を辿ってきたのだと告げると、ますます信じられないといった表情をみせ、感心してくれている様子だった。さっそくビール、ジュ



高丸山山頂にて

朝から変わりのない澄んだ虚空に、一新一筋剛毛でめったような雲が見かけられ、その下に幾重にも重なる山並みを見ては、感動は原初ごとくつまらなかった。出発前に皆がチクタクしたことがまたまた笑いが湧いた。標を繰り返しながら既行する標線に、今まっさらまであそこを歩いていたのだと思うと、えもいわれぬ懐かしさが込みあげてきて、無意識のうち強要する雲早に名刺の言葉をつぶやいていた。

西方には、雲、最高峰の剣山へ向かって四方から山脈が集まっているのが窺かめられ、南に展開する高知の島が丸く、晴天の恩恵を受けたことと対面がなかった。東通かに海陸のような街と海が見え、それが阿南市と橋、海であることもすぐに了解できた。標と不安がすべて取り払われそれに変わって歌謡が止めどなく噴出してき、健志したゆえに秘められたこの山の滋味を十分堪能できた。

15時、冬敷りを振り切って山頂を後にした。全日はほんの少し前まで、灌木とスズタケに苦痛を強いられていたことなど全く記憶

れたかのように気極な心身に戻っていた。中には、早くも次回の山行計画を練っている余裕の音さえたはじだった。

行きにあらかじめ止めてあった車に再び身を任せ、市街地が近づいた頃、ふと狼狽返ると西の空が燃ゆるような赤色に染まっていた。たれもが驚きの念を抱き、酔酔したひとときだった。そして満ち足りた思いで帰れてゆく一日が、この時ほどいとおしく感じられたことはなかった。

(平成5年8月と日歩)

- △コースタイム▽
- 徳島市(2時間00分) 高丸山登山口(40分)
- 高丸山(20分) 旭の丸(1時間35分)
- 12800(55分) 12800(1時間)
- 13300(1時間) 13300(10分)
- 12800(25分) シヤクナゲピーク
- (25分) 高丸山(40分) 駐車場(40分) 高丸山登山口(2時間00分)
- △地形図▽2方(1:25000) 高丸山
- 5万1:25000



伊豆の島々

神津島・式根島・新島・利島・大島

伊豆

山形歳之

伊豆諸島の島々をめぐる山行を計画する。ガイドブックを調べてみると、伊豆の島々をめぐる東海汽船の航路は、大島・利島・新島・式根島・神津島と三宅島・三根島・八丈島の二つに分かれている。これらの島々を連続して行くことはできません。全部回るには一度東京に戻らねばならない。

そこで今回はまず神津島航路の島々をめぐることにした。平成6年3月、青春18切符を使用して、横浜の浜友A宅宅に行く。時間にはこと欠かないので、安く行ける青春18切符を利用した。

A宅宅に行く、今日は神津島と式根島周辺に震度の地震があり、一部道路が決壊したそうで、テレビでも報道している。

予約した民宿からは、それでも来ますかと電話が入っていた。船会社に問い合わせると、船は出港すると言っているので行くことにする。ところが島への電話はなかなか通じなかった。

神津島への船は東京竹芝野崎から出港するのだが、金曜日と土曜日だけ横浜に寄港する。私たちはこの便を利用して、横浜港23時30分発に乗船する。船内は大島の権祭りに行く団体が賑わっていた。

翌朝ほとんどの客が大島で下船すると、がらんとして、ゆっくりとくつろげるようになった。5000リソの船は揺れもあまり感じなかったが、「強風のため利島には寄港しません」と船内放送がある。数人があ

天上山 (神津島)



たふたと降りていった。冬季は西風の強い日が多いので、波止場の不完全な利島へはしばしば寄港できない日があるらしい。私たちが帰途この利島を予定しているのだが、風まかせになりそうだった。

神津島

最後の神津島でも風が強いので、夏浦の多幸湾の森に入った。お陰で天上山の激しい崩壊の斜面をカメラに収めることができ

た。港では民宿「あまた」の女将が僅パンで待っていた。シーズンオフの今、観光客らしいのは私たちだけであった。

多幸湾から峠を越して町に入る。狭い傾斜地に民家が密集している。警自動車やオートバイ交差点をくぐり、狭い曲がりくねった坂道をくだって、小学校近くの民宿に着く。

地震のことを尋ねると、怖かったがたいした被害はないとのことだ。安堵する。ひと休みして天上山の登山口まで車で送ってもらった。村のすぐ後ろの急斜面を登ったところには黒い登山口がある。見上げる山の斜面は崩壊すかきり嵐。黒熊が、数年前の山



火事ですっかり焼けてしまったそうである。ここには道標も立ちのしれ合も消られていた。港跡の口をジグザグに登る。木が一本もないので足踏らしは注意、神津島の村と港が眼下に広がっていた。

道には1合・2合と標柱が立ち、10合で標柱に通ずる。やと緑の嵐が吹れては、とす。山頂は火口跡になっていて、外輪山らしいピークが沢山あり、火山特有の岩石が積み重なっている。その中に遊歩道が延びていて、各所に道標が立っている。やがてベンチの置かれた小さな砂浜に山を去り、去り、公園のようになっている。運動場

に出ると、新島・式根島・利島そして大島も望まれる。これらの島々は思っていたより近い。三宅島は山よりと遠くでいた。不動池のほとりには沢山のタオルが並ぶ下がついて、広げると、いろいろな新築旅館の名前が並べられていて、遊歩道を折って眺められたものらしい。

下山は三區口を下る。こちらは黒馬口より傾斜がゆるい。山頂部は白いザレ場だがすぐ樹林の中の道になり、林道の白鳥登山口である。そこから黒馬山や勝山神社(モノイミナモト)と山頂を眺めながら名前の神社を見て宿に帰る。

式根島

一日一便の船で式根島に向かう。わずか40分の近さである。連絡してあった民宿「じゅうそう」の若い主婦が赤子連れで出迎えてくれる。式根島は小さい島で、特に山といえるほどの山もないが、先ず三角点のあるカンピキ山に行く。カンピキは神引

と書き、良い感嘆詞になっていて、新島が手に取るように見える。後ろのピークには3等の標石が入っていた。唐人ズシロを回る樹林の中の道は、展望は全くないが、鮮やかな緑がたのしめる。

島の各所の地経温泉は、先日の地震で道路の崖が崩れて、通行禁止の立て札が立っていた。しかしせっかくなのでからと現いてみると、苦むした岩の間にお湯が茶色くよどんでいて、入る気にならなかった。湖の干涸に影響されるのかも知れない。もうひとつの足付温泉に行くと、折から海岸の「坪位の硝子のような湯船に地元の人が入っていて、「ちよと良いですよ」と言っているのである。透明な湯はいい加減であったが、湯温になるのはほんの少しの間聞かないようだ。今朝が込んでくるところで、早いと熱くて、遅いとぬるくなることのであった。座った底の砂利の間から、熱い湯が尻をつついて湧いてくる。湯の熱大層なのはほんの少し入浴できるよになつていて、地元のおばさん達が着のまま入っていた。こちらは涼んでいてぬるくてあまり快適でなさそうだった。しかし潮には関係なく入れる。

新島

式根島は新島の管轄で、村営船が島の間を連絡している。東海汽船を待たなくとも新島へ渡れる。

朝、島を出る時激しい雨が降った。小さい船は上下にはげしく揺れる。ふと窓から外を見ると、雨の過ぎ去った空に虹の橋がかかっていた。海から海へくっきりと薄れることもなく七色に染め分けた半円形の虹を見るのは初めてであった。椅子につかまらずに身を動かさないう状態では、カメラを取りだすこともできず残念だった。新島まではわずか10分であった。

運の車で民宿「えびすや」に到着。一息ついてから宿の車でレンタカー屋に案内してもらった。先ず島一番の宮塚山へ、山頂まで車道が通じ、ひとりで大きなパラソラの立つ山頂に行ける。アンテナの後ろのピークに立つところと測量の最中で、GPS測定の架台が立ち、その下1層ばかり離れた土の中に三角点標石が顔を出していた。後で知ったのだが、地震の激震の測量をしていたそう、そのお陰で標石を確認できたが、普通なら1層も埋まっていればとても探せなかっただろう。しかし400年前の山頂で標石が1層も砂に埋ま

ることは、雨の池さびに驚くばかりである。島は南と北に山が分かれていて、北にはこの宮塚山が、南は硫火石の麓のある山が広がる。そして島の西端はミサイルの試射場になっていた。こちらには三つの三角点標があり、その一つの大聖は遊歩道で登ることが出来る。島の北方の展望が素晴らしい。

丹後山は湯がなく熱湯であるが酸を分けるとじ登ると、一坪程の山頂はまるで塔上に立ったよう、目の前の式根島に手が届きそうであった。

海岸にある黒根の硫大風呂に行く。遠くから右の上にギリシャの神殿を模した黒根が見えていたが、雷とこれが展望露大風呂であった。もちろんこの特産の抗火石が使用されていて、なかなか焼けた造作である。お湯の中から式根島・利島・神津島が眺められるので大聖熱気な気分になれる。現在ここは工事中で、完成すれば立派な温泉施設になることだろう。

この島の名物は特産の抗火石で造られたモアイ像で、海岸の遊歩道などに沢山並んでいる。いろいろな顔が彫られて、次々に眺めてゆくと飽きることがない。又、三角点マニヤとしては、村役場近くの車道の真

ん中にある伊能忠敬が測量の基点とした所も、興味があつた。

そのほか為利神社や、流人の墓のある長栄寺などもよい見所である。

利島

正午の船で利島に向かう。利島は伊豆七島中最小の島で、周囲わずかにも、面積4平方、人口300人の島である。そんな島の中央にうらやまの宮塚山が聳えている。海上から見る利島は、三舟連の葉舟らしい姿をしている。しかし平地地がないので人々はどこに住んでいるのだろうか。港も短い波止場一本だけで澄んだ波にさらさらしていた。船が揺れるの心配になつた。



黒根の露天風呂(新島)

らいてある。港から狭い急坂を歩下りの民宿「かねた」に歩く。すぐ車で宮塚山の南正面登山口へ送ってもらった。

東口のはうは距離は短いが急で、南口のほうが登りやすいとのこと。

登山口には道標もあり良い道が林の中を登っている。回廊のサラリーマンもスーツに軍靴のままでいってくる。以上まで「三三三」思ったより簡単に登れそう。三角錐で急坂かと思つたが、散歩しているような道であった。山頂には火口を一周する道があるが、すでに一面林に包まれて火口など見えなくなる。山頂は深い竹林の中で全く展望がなく、2等の標石があるのみ。少し山頂を回った所に10センチばかりの木製の展望台があり、その上からわずかに村と大島が見えた。下山は真口へ、たった430段、あつたなく林道に降り立った。しかし村までの林道は長い、短々と車も人影もない車道を下っていく。よく見ると道端にアシタバが沢山生えていた。歩きながら新島の柔らかなようなを柄んでいく。たちまちビニールの袋がいっぱいになる。独特な匂いが原をつき、手は黄色の汁に染まる。

アシタバは健康食品として栽培されているが、こんなに簡単に道端で採集できると思つてもあなかな。付近の山は一面の植帯で大島の滑油はこのものが多いとのことである。

夜の食堂にはアシタバのおひたし、てんぷら、汁の身、刺身のけんまでアシタバづくし、独特の香味があるので、同行のA氏は嫌いだと言つて食べなかった。

翌日上りの船で大島に向かう。海には白波が立ち、時々波が船の上を流す。船は大きく揺れ、波にもあそばされながら航行した。

大島

大島でも頭が強く夏の四国港につく。大島は有名観光地、大勢の団体で遊ばせられている。御存知の方も多しことだし私もすでに二度ばかり来ていて、いまさら三原山でもないで、裏の飯沼港近くの民宿「けんじ」に予約して入った。

大島には泊して南の千手山と白石山に登る。裏から伊勢越しに眺めた真つ黒な三原山も社製であった。翌日元町港で船を待つ間に露大風呂にかかる。そして最後の汗を流すと橋浜に向かう船上の人となった。(平成6年3月歩)

ムコスタイム

神津島・黒島口(一時間別分) 天上山 利島・南登山口(約20分) 宮塚山

△地形図△

5. 万々大島・利島・新島・神津島

野の花讃歌 (5)

市川 正次朗

ツリフネソウ揺れて



花の色、形は
実にさまざまで
す。まさに自然
の造形、これは
神のなせる技と
ツリ
しか思えないと
感服してしまっ
ておしまひばり
です。そんな私が、夏から秋への季節の移
り目に必ず見たい花がヤマツノホトトギ
スとツリフネソウです。幸いなことに、ど
ちらも京都北山のどの谷筋を歩いても精確
お目にかかれるからうれしいのです。

ヤマツノホトトギスは、甲に咲くホトト
ギスと違ってまったくひかえり。暗い木立
の山の小さな陽だまりに、紫色の斑点も秘
めやかに、るんと伸びた二階建ての花茎の
姿が実にほほえましいのです。わりと恥ず
かしがり屋なので、真横を歩いていても気

づかないこともしばしば。真下に紫色のま
んだら模様のある葉っぱが目印。

ツリフネソウはその名のとおり、星形舟
をひもでつり下げた独特なスタイル。一度
お目にかかたら忘れられないことができない交
わり種です。濃い紅色のが大部分ですが、中
中には黄色や白色も。形が形だけに、わず
かの風にもゆらゆら、ピントを合わせるの
に苦労します。

アブラゼミの鳴き声の少し元気がなくな
る頃、かわってヒグラシの足を引き声は夏
の終わりを告げると、北山の秋は駆け足で
やっけます。あのユニークな神の贈り物
ホトトギスやツリフネソウは、もう咲き始
めているのでしょうか。

童仙房のリンドウ



花の形と
ともに、そ
の色の合いに
リンも恐れ入り
ます。代表
格はスマレ
とリンドウ。どちらも紫色を基調としなが
ら、その微妙な色合いが何とも目撃です。

ふりりんリンドウのりりり花咲く頃は、
もう30年も昔、足立千代子さんの大ヒット
曲です。その頃、ちよつと田舎へ行く和田
んぼのあせ道、陽のあたる山道に、秋にな
ると精確リンドウが咲いていて、あの「リ
ンドウ峠」という歌を口ずさんだものです。

ところがこの数年、里山のリンドウが、
きり少なくなっていて、神しい限り。関
西では北山山道もかなり美しく豊らないと
出金えなくなりました。

かくいう精確のリンドウに、たまたま里
山歩きの際すが、たくさん山会うことが
できました。場所が京都府の西粟のはずれ、
童仙房というところ。山の雄健に紹介され
たのを見て、おと昔話の舞台のような地名
にひかれ、ふらっと出掛けました。

標高5000以上の台地に拓けた山村は、
のどかで、周囲の山すそに濃い緑色の茶畑
がやさしく波打っていました。さすが奥地
田んぼのあせ道、山すそに、あのりんとう
昆ある紫色の花が、しっかりと咲いていまし
た。センブリ、オミナエシ、フレモコウな
ど秋の花もオンパレード、思わぬ出会いに
時を忘れたものです。

風も涼やかに、たてたコーヒーの味はま
た差別のものです。

京都北山 やぶ漕ぎ痛快山行記 (16)

百点満点のヤブ尾根格闘歩き

雲取山から寺山峠尾根通しで旧花背峠へ

午前20時、午後7時、前後7時のテレビ
の降雨率予報。早朝も時頃空を見ると薄月
が輝々と西空に輝り、雲の流れも早い愛
宕さんまじり。(京都府内在住の登山家・
北原山へ)雲が流れば南空になるとの翌天
予報)、木日はあまり天気には恵まれそう
にない。ともかく始発バス停出町駅へ出る。
天気の良い日は比叡山ノ本行きが少なく、
広原原行きの人が多い。秋のシーズンにし
ては珍しい現象だ。バス窓から北西の空を
見る。青空なく完全に灰色の天空、お昼弁
当がすむまでは落ちてくれるかと祈りつつ
バスに乗る。

北大路丸バス停で洗面休憩。臨時便の

京都北山グループ

平配も無縁でOK。堀川、今宮停からの仲
間も臨時便で花背峠下停で下車合流する。
こんなお天気模様でも、山好きが引人。
「やっばり入ええなあ、山の空気は」
この花背峠系は物部・藤三姓が多数
をしめ他の姓はさわめて少なく、藤井さん・
物部さん宅とご一緒して、藤井さん
の誰さん・物部の誰々さんと名前を言わね
ば通じない京都北山ではの東路。花背小学
校前から、雪水足で休養しているスキー場
への道を進む。ゲレンデもスキーが茂り、
施設建物の様子があわれな姿にかわりつつ
ある。やがて杉植林の谷筋の山道に入る。
しばらくは谷沿いから鉄血山道にのり寺山

峠へと高度を上げる。峠が近づくとつれ風
もきつく雲の流れも西へ飛ぶよう速い。予
定より10分も早く峠に到着。今日のメンバー
の足袋は揃っている。☆一つ半コースを
ご承知の面々だ。旧花背峠への尾根通しは
この峠を左に登るヤブ山道だが、今日は雲
取山から下山後、一ノ谷の右保支流から尾
根にとると皆さんに説明する。小休止のあ
と、一ノ谷へ下る。この秋は山も水をいっ
ぱい含み、この下り道も歩き水を滑りやす
い。初っぱなから松林でもしたら大変と憤
面に一ノ谷清流までおられる。左は二ノ谷か
ら雲取山への分岐の辻。右の道一ノ谷から
雲取峠までは緩い登り、伐採植林直後の明
るい谷で稜線まで一望の、名の通り一ノ谷
だ。谷からはずれ右斜面の道を伝い雲取峠
に登りつく。東の展望が大きく広がりが小休
止をとる。一ノ谷側は晴原、竹次谷側はツ
ツジ科の灌木帯に分かれ、この峠も北山で
は秀麗な峠の上位に入る。

き10番目の山。

開閉は東面のみでもうひとつ、先の雪取峠の方が元貴株。ここへも15分も早く着く。やはり後半の長い道を気にかけているせいだ。又天候の影響を心配してか足運びも速い。頂上には他のハイカーが5人程おり狭いので車々に二ノ谷へと逃避する。二ノ谷のヘッポコが腐ったままで危険。左巻き道で立命大ワンゲル小屋前に着き、二ノ谷渡頭・路水くもとり。で喉をうるおし小休止。時間はまだ11時間。お昼はP862の尾根でと一ノ谷出合いへ二ノ谷沿いをおろる。出合いから左へ一ノ谷沿いに通り、10分程で一ノ谷右側支流の取りつきに降り、赤テープだけであつかりすると通過しやすいが、我々は昨年6月の例会でこの右俣を踏んでいるからすぐの丸木橋を渡り、鞍線がけて東進する。水がなくなる傾杉植林と雑木林の



境の斜面に取りつく。この辺りで踏み跡は完全に消えて世の急斜面のヨジ登りとなる。傾斜急にして5分、リーターから「野きなルートで尾根に登れ」の号台あり。昔さん腰一綱、てんでばらばらに木の根、枝組みで横線になる。斜面には木の間縫いに花背峠のN.T.道渡茶から滝谷山や大目尾根が展望できる。黄色に色づいたクスギ・ミズナラ・カニナゲルのドーム状の幅広い尾根。てんでんばらばらリーダーが案内してP862の手前のピーク広場で昼食の円座を開く。目立もなく釣色の空の下、座しての食事には、冷風に体温がとられ、焚き火がほしい季節になったなあと思う。しかし昔さんお酒、ビールとカロリーいっぱいのお弁当で後半の体力英気を養う。この傾向を呼ぶせりり風、旧花背峠へのヤブ滑ぎで雨が落ちてきたらスズバネカナン

から小休止をとる。この頃午後降雨率70%の予報通り雨が落ちてきた。峠下のパス等にと下っても第二便のパスには間に合わない。後は車まで歩いて鞍馬山奥ノ院への鞍馬尾根道へと決める。ヤクルト応援団のごとく車の行列が続く。右下にアソガ谷、その上に黒船尾根、持越尾根から続く登山・地蔵山の稜線が展望される。雨もまた乱流とワイワイガヤガヤと進行する。



旧花背峠の地蔵さん前にて

林道から鞍馬尾根P674尾への切り換えの分岐点で、雨具オーバーホズボンなどヤブ滑ぎに備え完全装備し、雨の巻尾根道に入る。入り口は有明鉄線で封鎖され、ママシ・熊出渡の看板を通行止め、これも心ないハイカーに対し鞍馬寺前の苦肉の策とみる。我々は僅スズバネ尾の鞍馬尾根道に突入P674から684尾へと尾根をつたう。霧けむる雨となり雨がただよ、曇霧のどよめきながら山域に悶々。静しなげな遊歩者の後姿のクマザヤブ滑ぎに入る。背たりを

担すササのトンネルでゴブテックスの雨具も用をなさないう始末。ほうほうの体で進む経家のある鞍馬山0.01の樹下のピークに出る。亀子池・牛若丸塚前を通り鞍馬寺本山前の舞台の軒下に至る。鞍馬寺は6月の法蔵師の竹杖り問答行事で有名な、またこれから通る山崎神社は10月23日の鞍馬大祭りで開催され、この石段をおりれば鞍馬御道に出て、鞍馬鞍馬駅に着く。

ここで全長16kmの丸尾山から地蔵山・寺山峠尾根、鞍馬尾根道の長丁場コースの例案を解放した。
(平成5年10月1日例会に歩く)

▲登るタイム
出町峠7・50
花背峠下パス峠9・10
20
寺山峠9・50
盛取峠10・30
取山11・00
05
一ノ谷右側出合い11・30
P682鞍馬11・50
12・40
旧花背峠14・10
15
鞍馬尾根16・00
鞍馬寺本堂18・30
140
鞍馬尾根P7・10(休憩食事時間含む)

△地形図▽明文社「」の京都北山「」

（図録 出口 沢水）

サフラン (Garдения Pruriens)

アカネ科 (Rubiaceae)

サフランの根は何をかんたんに採るが、御存知でしょうか。実はこれ、六角形の種子の実はです。「鱗茎」は地下にあり、葉は対生葉で葉以外は蒸すおれ(「口なし」といいます)。この果実や花びらには毒を含有しては用いられません。生薬名を山標子と云い、「瀉薬全書」の中に記載されており、クニサイド等の配製体、クニシンの黄色色素を含まれています。

初霜を受ける10月、11月、黄赤色の花葉果実を採取、葉を除去して乾燥しにします。果実の皮は食用にはならず、薬用では主に、心臓部の炎症や充血の取除、痔瘻、不眠などを治す目的で処方されます。また、果実を10分ほど甘草煎液の色つけとしてよく使われます。果し、ソフトムに対してクニシンの葉1個が1日2回、静脈のある、程よい黄赤が素材をより引き立てます。

エリア別徹底研究

熊野古道を歩く

— 小辺路 (高野山から伯母子峠・果無峠) —

児嶋 弘幸



三浦口バス停前の道標

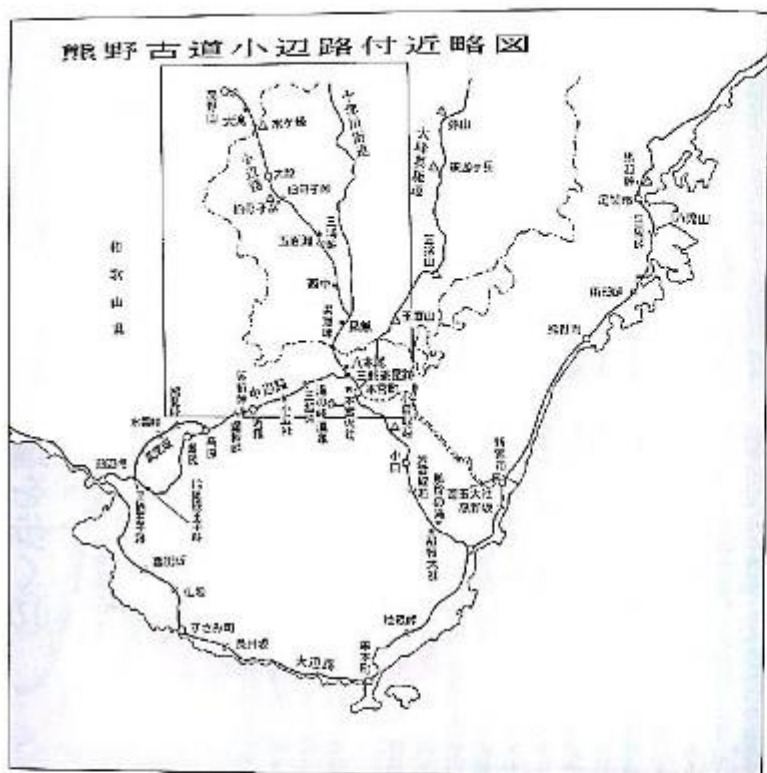
小辺路は高野山・西熊野街道とも呼ばれる道で、紀伊半島の山岳地帯を南北にほぼ一直線に貫き、和歌山県の二大宗教都市、高野山と熊野三山を最短の距離で結んでいる。その中のひとつ、大滝口が小辺路ルートの大滝峠にあたり、大滝口を基盤に大滝集落、水ヶ峰の集落を経て、伯母子峠・三浦峠・果無峠の三つの大きな峠を越え、三軒茶屋で中辺路と合して熊野本宮大社へと入っていく道が小辺路ルートということになる。

東西に延びる山脈をほぼ南北に越え、そこから張り出した尾根を渡るだけなら、かに登り下りする、直線的で、かつ合理的なルートが選ばれている。「熊野詣修行」には「参り大門より本宮へおよそ十七里半程、道を小辺路と云々」と記されている。小辺路ルートは主として上方から西園三十三か所巡礼の一番札所、高野山に詣でる参詣路として、かなり早くから成立したルートで、道標や町石は数所ごとに造立され、橋や舟渡しも設けられ、交通路としても機能し、明治中期まで利用された。また伊勢から熊野へ入り、高野山を経て上方に向かう、いわゆる関東ベニラが多く通行した道であったともいわれる。

今号では小辺路ルートを「高野山大滝口から大滝」「大滝から伯母子峠越え」「五百瀬から三浦峠越え」「十津川温泉から果無峠越え」の4コースに分割して紹介することにしよう。

【問い合わせ】

高野山観光協会 0736(56)2616
高野町産業観光課 0736(56)2931
野迫山村観光局 07473(7)2101
十津川村観光協会 07466(3)0200



檜峠からの道



南海電鉄総合案内所 06(643)1005
南海電鉄バス高野山営業所 07366(6)2250
奈良交通バス 07466(4)0408
高野山タクシー 07365(6)2628
のせ川タクシー 07473(7)2814

◇ このコースを歩くのに際しては、バスの便が悪いため、4コースをつなぐ計画を設定するとよい。中継地となるそれぞれの集落には、民宿や旅館などが完備されている。またコース途中には野道川、十津川、海峯の峠、川根温泉等もあり旅の疲れをいやしてくれる。

高野山大滝口から大股

こうや きん おおたきぐち

おおたき

千手院橋バス停下車。金剛三昧院の入り口を示す石碑に従って舗装道を南下する。左手に金剛三昧院を見送ると緩やかな登りの林道歩きとなる。やがて大滝口女人堂跡の小広い台地、ろくろ峠に飛び出る。

一〇世紀にもおよぶ古い期間、女人禁制の山としてにぎわった高野山には、高野七口と呼ばれる七つの参詣路があり、それぞれの入り口には女人堂が置かれていた。現在は不動坂口女人堂がただひとつ残っている。女性たちは女人堂より山内に入ることが許されず、女人堂と女人堂を結ぶ道、女人道をたどって、遠くから奥の院御前を拜んだという。首を長くして山内の様子を眺めたので、ろくろ峠の名がある。

ここで右に道をとり、946坪ピタに登ってみることにしよう。霧尼山、楊柳山、転脚山、雷池山、弁天岳……の高野の峰々

と、「紀伊国名所図説」に描かれた風景が、一瞬にして重なり合っている。タイムスリップして涼い昔に思いを馳せてみよう。朝もやの中に、高野山詣堂が浮かぶさまは素晴らしいのひとことである。

峠に戻った後、なおも林道を南下、円通寺への女人道を左手に見送る。切り開かれた好景望の足根道となる。無線中継塔の少し手前、勾配で左に山道を下る。坂の途中に「かうや山エ四十四、くまの本宮二十七リ」の町石が大滝集落を見おろすようにして立つ。これより熊野本宮へは約680の行程。

御殿川にかかる鉄の橋を渡る。「熊野めぐり」に「此処にふかき谷川有り、水いさぎよく流れ、丸木を渡して橋とす」とあるところ。下を流れる川は御殿川と書くが、高野山の下水が流れてくるところから河土

変わろうとしている。無惨な姿の山肌を、の当たりにして非常な憤りを感じずにはいられない。

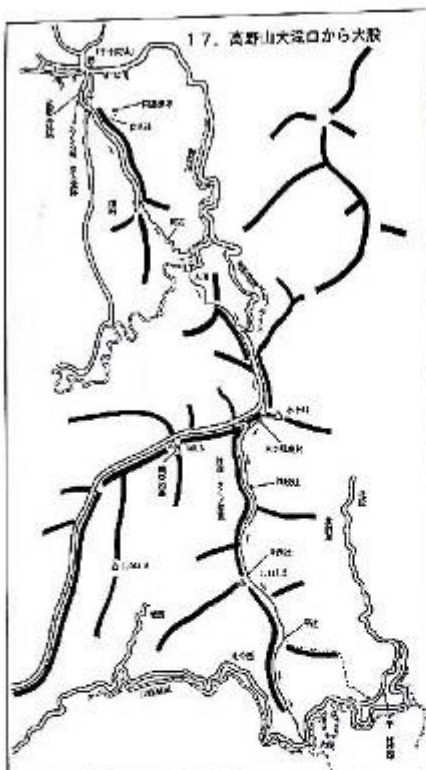
橋脚は、今西辻を通り過ぎると、前方に口千丈、牛首の峰、伯母子岳、赤谷崎と連なる山稜みが広がる。しばらくして、「くまのみち、これより本宮まで十四り半」の文字が刻まれた石地蔵の立つ平集落と大股集落の分かれ辻に着く。ここでは右手、急坂を下り、大股の集落に出る。

とこころで平清盛の系として、伝説的要素

に事欠かない平集落。平の集落には維盛塚を中心に「平維盛歴史の里」が作られている。

「コースタイム」

- 南海高野線難波駅(特急電車1時間30分)
- 高野山駅(南海バス12分、千手院橋バス停(30分)ろくろ峠(10分)、946坪ピタ(5分)ろくろ峠(50分)峠(50分)大滝集落(1時間20分)水ヶ峰(30分)橋脚辻(40分)今西辻(30分)平の辻(50分)



平 性 盛 塚



大股バス停(村宮バス) 野治川役場前(南海バス) 高野山駅

△地形図

2万5千11高野山・泉瀬・上垣内

△アドバイス

◇大股からのバスの便が悪いので、日帰りは難しい。

◇大股には民宿があり、徒歩で9分の北今西の集落には野治川温泉もある。

(見崎 弘幸)

ろくろ峠から高野山を望む



川が名の起りとか。

大滝集落を抜け出て登り返すと高野龍神スカイラインと合流する。1.5分余りで再び古道へ、水ヶ峰の登りとなる。水ヶ峰山腹にはかつての旗幟を祀る防風林らしい杉の巨木と石垣が残されている。やがて秋道・タイノ原線が右手から合流する。生活・信仰の道として長い間歴史を刻んできた道が、わずか半世紀の間に林道にとって

大股から伯母子峠越え

大股の奥を抜けると、「けわしき上り也」と、「熊野めぐり」に記された植林帯のジグザク道となる。しばらくして庵屋も営んでいたといわれる。山腹を絡んで緩やかに登ると、奥山との繋ぎ、峠に出る。常木峠ともいう。ここ峠には弘法大師が誓を捧したことによって、二本の幹の太木となり、その後一本が枯れたため、石を木を植えたという故事が伝わっている。前方に優しい山容の伯母子岳、その左に緩やかな稜線を描いて赤谷峠が指呼できる。峠をあとに山頂を縫うと、熊野道を示す道標の立つ十字路に突き当たる。まっすぐの道が直接伯母子岳に登る道で、右にすれば奥山、ここでは左、神野谷の源流部をトラバース、伯母子峠に向かう。神野

子が生まれたのを子の谷に住んでいた人に託して、そこから伯母子の名が付けられたという。少しして無人小屋「伯母子山の家」の建つ、伯母子峠に着く。「山の家」は新しく建て替えられており、10人ほどの宿泊が可能。傍らに道標が立ち、「スグ、十津川ヲ経テ熊野道」、反対面には「左、大股、水ヶ崎ヲ経テ荒神熊野道」「右、平、北股ヲ経テ荒神熊野道」と刻まれている。道標の「スグ」は、まっすぐの意味だ。明治二十二年八月、十津川村をおそった大水害で、168名の死者を出し、3000人近くの村人が新天地、北海道への移住を決定して、ふる里を離れた。その多くは、五百瀬からここ伯母子峠を越えて村を出たといわれる。右の道を急登、伯母子岳山頂を往復する。

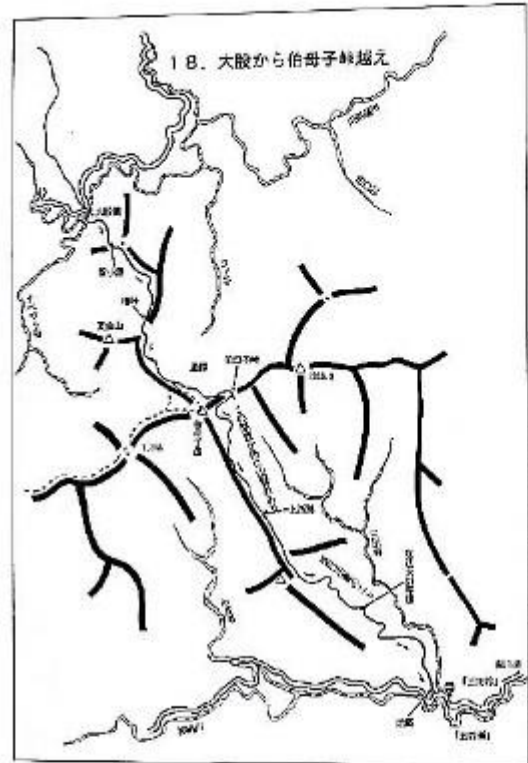
伯母子岳を望む



伯母子岳はススキと白萩が混じる疎林帯のピークで、春にはドウダウツツジ、ヤマザクラが色彩を添え、秋にはブナや紅葉、冬は樹氷を見ることもできる好展望台。北に荒神岳、水ヶ崎、西に牛舌の盛、間に約二十丈から奥山山へと続く縦走路、南に鉢ヶ岳、奥山、その背後には奥山の山々、また頂上から少し奥に湯所を覗けば、八経ヶ岳、釈迦ヶ岳、笠ヶ岳、三山と続く大峰連山の展望が360度に開けている。

峠に戻った後、道標にしたがって十津川方面に道をとる。山腹沿いの道から尾根筋に出ると、右手に流麗らしい石垣が残る。上西郷がある。再び山腹を大きく絡むと、杉・松の植林帯に変わる。

まもなく道の右手、小さな河に注がれた弘法大師像があり、なるも大股を下り、車道に降り立つ。左へ急傾を登れば三田谷



さらにトンネルを抜ければ五百瀬の集落だ。

《コースタイム》

- 南海難波駅(南海高野線) 三野山駅(南海バス・村営バス) 大股バス停(1時間) 立甲荒神行きに乗り、野迫川役場前で村営バスに乗り換え、大股で下車する。事前の問い合わせが必要。
- 三田谷・五百瀬にはバスは通じているが、本数が少ないので注意する。
- 伯母子峠から五百瀬の間、数か所に山崩れが発生しており、十分注意すること。

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。
足にピッタリ/
登山靴のことならお任せ下さい。
(定休・火曜日)
〒604 京都市中京区丸太町通堀川東入
☎ (075) 211-5788
☎ (075) 231-0318

山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

五百瀬から三浦峠越え

五百瀬付近の小辺路ルートは神納川・三浦谷合流付近から五百瀬トンネルの上に出た後、三浦口バス停まで村道のすぐ上を歩落泊りに進んでいったという。

ところで、この付近にも平維盛の伝承が残っている。平家の嫡男、維盛は平家の中において、もっとも華やかで、富士川における源頼朝との合戦や、越中での木曾義仲との戦いにも総大将として大軍を率いて遠征しているが、どちらも見事な負けおりで、武人としての面目がつかれてしまった。その後、平家は原島の戦いにも敗れ、維盛は那智浦で入水したと伝えられる。しかし一方では平家侍りの過討を避け、吉野・熊野山中を転々として生涯を終えたともいわれる。ここ五百瀬は平維盛がいくさに敗れてこの地に入り、姓を小松と改めて住んでいたと言われるところで、元暦は政府と

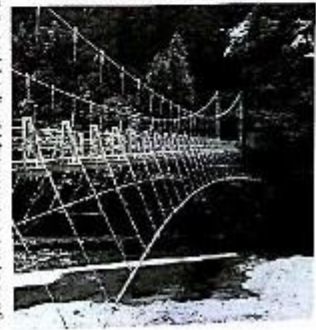
いい、神納川の庄屋だった。ここ五百瀬トンネルを出たところ、五百瀬バス停前に維盛の墓と伝承をたどる小さな祠が祀られている。話を元に戻そう。三浦口バス停前の足元に、近くの煙から掘り出したものという、「これより本宮へ 十リ」と記された自然石の道標が忘れ去られたかのようにひっそりと立っている。これより三浦峠への登りにかかる。

「熊野めぐり」に「寒の川 船渡有 三浦村に至る」と記されたところ。現在、神納川には舟り橋がかかっている。

対岸に橋を渡ると三浦の集落に着く。ここも原野が目立つ。石組みの跡が残る急坂の古道を登る。やがて北方の伯母子峠を見つめるように町石がばつんと立っている。

際城が著しく、「川より二十五丁」という文字が、どうにか読みとれる。三浦口の吊

神納川にかかる船渡吊り橋

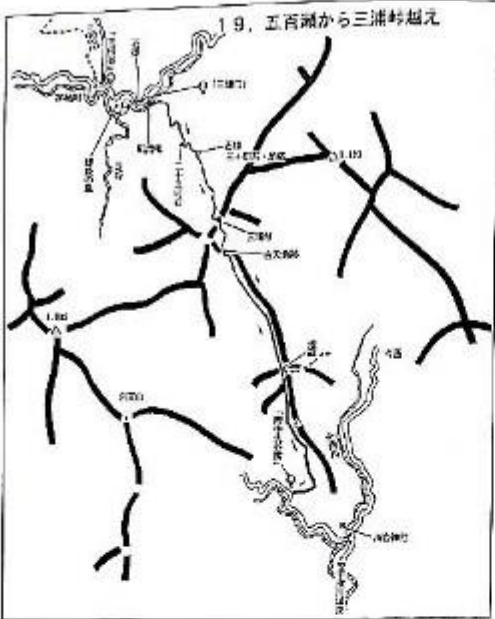


り橋が二十五丁登ってきたことになる。

「熊野めぐり」に「五丁目五丁目に町石あり」と記されている道であるが、現在、ここが三浦口から最初の町石ということになる。なお急坂を登ると、二十町石と町石蔵が並んで立っている。道標をかいた地蔵には「左たまたま山 右はんぐう」という文字が刻まれている。

緩やかな登りとなり、三浦峠に飛び出る。「熊野めぐり」に「春の頃旅人往来多ければ所々茶店有」と記されている三浦峠であるが、今では、東西に林道が走り抜け展望も期待できない。

峠を越えて西中へと下る。途中、古矢倉跡があり、ここにも半世紀前まで茶店があっ



たといわれている。古矢倉跡から尾根道を下る。△西・奥大谷集落との辻にも地蔵道標が立つ。「すべかうや道 石左左所置」と記されている。なおも足根附いの緩やかな下りを行くと矢倉集落を通過して西川流域の西田大谷橋バス停に着く。

（コースタイム）
 J長五峠駅(2時間00分) 川津バス停(徒歩2時間 奈良交通村営バス20分) 三浦口バス停(1時間) 二十五丁の石標(0分) 三浦峠(30分) 古矢倉(1時間00分) 西中大谷橋バス停(奈良交通村営バス30分) 十津川温泉バス停(3時間00分) J長五峠駅(地形図) 2万5千110伯母子峠・重里(アトバイス)

◇ 本コースの到着地、西中大谷橋バス停からなお西川に沿って小辺路ルートであるが、バス道に沿っているため、ここではバスを利用する。

◇ 五百瀬・西中方面共に、バスの本数が少ないので、時刻に注意する。

(見逃し注意)

新ハイキング選書
 ●日本山岳会選定●

第15巻 好評重版発売中
日本二百名山ガイド 《東日本編》

第16巻 最新刊
日本二百名山ガイド 《西日本編》

市川絳子 / 岡田敏大 / 岡部紀正
 川越はじめ / 廣澤和嘉 / 共著

320頁 1600円
 A5 5冊 1600円
 定価

発行所 新ハイキング社
 東京都北区滝野川 7-5-13
 (03)-3915-8110
 振替東京 3-146915
 ●振替での注文は送料当社負担

十津川温泉から果無峠越え

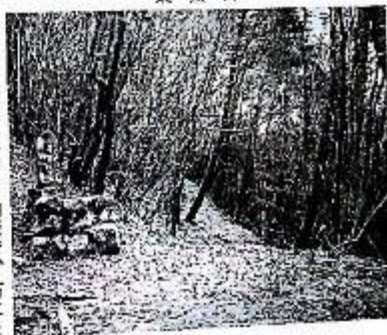
十津川温泉、または腰尾バス停下車。二
 治野ダム湖を左に眺めながら本宮方面
 に国道をたどり、西川口の鉄橋を渡る。車
 道を石垣、5分ほどで左手に果無峠越えの
 十白瀑を見つけた。石壁が敷かれ往時を偲ば
 せている。しばらくして果無集落の庭先に
 飛び出る。茶屋であったといわれる家の軒
 先を通り抜け林道を横断すると、山道傍ら
 に西国三十三か寺の石像が祀られている。

石像は主として十津川村と本宮町の信者
 たちが造り、大正末期の十一年から
 十一年にかけて造立したもので、十津川橋
 依止の第三十三番を基点に、ここ第三十番
 の石像を通り、果無峠の第十七番を経て、
 八木尾の第一番まで果無峠越えの古道に順
 次配置されている。

まのみち 左やまみち一と記された道標が
 立っている。併には地蔵菩薩像が祀られ
 ている。

西国三十三か寺の観音石像の一体一体に
 あいさつを交わしながら、苔むした石畳道
 を緩やかに登っていく。やがて自然林のト
 ンネルをくぐり抜けたところに観音堂があ
 り、堂内には石仏三体が祀られている。水
 場もあり一息入れるのには良いところだ。

一汗かいて急坂を登ると背後に行相岳・
 笠原山・地蔵岳と続く大峰主稜線の眺望が
 開けてくる。やがて植林帯の中を急登、果
 無山脈東端の果無峠に達する。宝篋印塔の
 合縁の一部と、第十七番の観世音の石像が
 祀られている。果無山脈は紀伊半島の南部
 を東西に約50kmにわたって、西の行者山か
 ら三尾ヶ峰、笠原山、和野ノ森、安産山、
 冷水山、ツナノ平、石垂方山、果無峠と続



果無峠

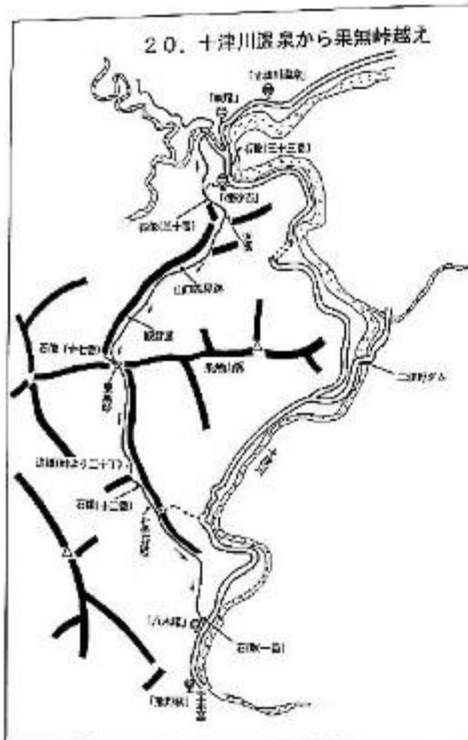
いて十津川の流れる山脈で、右にと
 れば右地力山・ツナノ平を経て果無山脈
 走コース、ここでは峠を越えて八木尾、本
 宮方面へと向かう。

第十番の石像を過ぎると、左、傍らに
 「とうげのり」の町石が其遺作にお
 かれていて、十、腰尾石像を過ぎてしほ
 らく下ると、眼下に熊野川が大きく流下し、
 右に、三尾峠の名で呼ばれる百崩山
 をはじめ大峰山、野竹法頭、大雲取山の雄
 大な山々が指呼できる。つづら折りの急坂
 となり、七色への分岐を左に見送ると、な

だらかな道となる。第一腰尾石像を経て八木
 尾バス停に降り立つ。

＜コースタイム＞

JR五條駅(3時間10分) 十津川温泉バス
 停(30分) 旧道分岐(30分) 果無集落(1
 時間30分) 観音堂(40分) 果無峠(1時間
 10分) 七色分岐(40分) 八木尾バス停(3
 時間40分) JR五條駅



＜地形図＞

2万5千—十津川温泉・養心門・伏拝
 (ア)ドバイス

○ 腰尾バス停前に、第三十三番石像が
 あり、これを基点にすると、すぐの登りと
 なり、第三十番の石像まで歩いてくれる。
 ◇ 八木尾バス停から本宮方面のバスに乗
 ると、新宮・紀伊田辺方面にそれぞれバス
 が通じている。(伊領 弘幸)

「九州の山」特集!

- 宮之浦岳登山と縄文杉ハイク
10月7日金～10月10日 102,000円 大原光希
ツアーリーダー(食事:朝5・昼2・夕3回付き)
- 宮之浦岳登山と縄文杉
11月20日金～23日水 102,000円 大原光希
ツアーリーダー(食事:朝5・昼2・夕3回付き)
- 宮之浦岳登山と縄文杉ハイク区間周遊
12月30日金～1月3日水 145,000円 大原光希
ツアーリーダー(食事:朝5・昼2・夕3回付き)

日本300名山登頂九州シリーズ

- 久慈山・大船山・清瀬山・赤布岳・巻見岳・舟形山登頂
10月27日水～30日金 96,000円 大原光希
ツアーリーダー(食事:朝5・昼2・夕3回付き)
- 霧島連山縦走・吾平峠・高野山・高野岳登頂
11月3日木～6日日 98,000円 大原光希
ツアーリーダー(食事:朝5・昼2・夕3回付き)

▲ アミューストラベル株式会社
 区内市東区255号 一階 新九州ビル東側2F
 福岡市博多区博多駅前2-5-28
 博多駅前ビル10F 千812
 ☎(092)414-5566
 FAX(092)414-8543

近世の伊勢街道ハイク⑤

伊賀街道（山城〜伊賀国境）

JR大河原駅→北大河原(本郷)→(金山)→山城・伊賀国境→
月ヶ瀬口→鳥ヶ原→上野城下(約15km)

中村 敏文

近世、南山城と伊賀国境近辺の伊賀街道は、上野城下以西は関宿西の道分岐から奈良に向かう大和街道と重複していた。

近世の諸庄

峠庄 三田庄志

宮庄 大和原

鳥ヶ原 鳥ヶ原 一里野町 一里野町

大和原から上野

一里野町 一里野町

鳥ヶ原から上野

一里野町 一里野町

大和原から上野

一里野町 一里野町

鳥ヶ原から上野

一里野町 一里野町

大和原から上野

一里野町 一里野町

鳥ヶ原から上野

一里野町 一里野町

大和原から上野

一里野町 一里野町

鳥ヶ原から上野

一里野町 一里野町

大和原から上野

一里野町 一里野町

鳥ヶ原から上野

一里野町 一里野町

大和原から上野

一里野町 一里野町

鳥ヶ原から上野

一里野町 一里野町

大和原から上野

一里野町 一里野町

鳥ヶ原から上野

一里野町 一里野町



長田には、荒木又右衛門一行が休憩した旧家や、森庵寺の反対側の奥には観音を祭祀する瑞光寺や、東北に弥勒寺・稻荷社・牛天王社がある。

急坂だったらしい。坂を登り(峠(東嶽))の果敢を過ぎると人家のない地帯が、統括し、鳥ヶ原村ハイキングコースの終点、周囲の景観に恵まれた三本松池に到着する。

長田の集客に入り平野川の橋を渡ると右側に橋本地蔵がある。長田の中心中ほどの交差点にあった道標は常陸守参道入口に移され、「みぎなら道 是より二丁南 蕨心坊 築上より所傳のえんまわう敷有とある。

鳥ヶ原から上野へは、明和3年(1766)の大洪水で舟溜りが埋没して舟の運行は絶たれた。

鳥ヶ原から上野へは、明和3年(1766)の大洪水で舟溜りが埋没して舟の運行は絶たれた。

鳥ヶ原から上野へは、明和3年(1766)の大洪水で舟溜りが埋没して舟の運行は絶たれた。

鳥ヶ原から上野へは、明和3年(1766)の大洪水で舟溜りが埋没して舟の運行は絶たれた。

鳥ヶ原から上野へは、明和3年(1766)の大洪水で舟溜りが埋没して舟の運行は絶たれた。

鳥ヶ原から上野へは、明和3年(1766)の大洪水で舟溜りが埋没して舟の運行は絶たれた。

鳥ヶ原から上野へは、明和3年(1766)の大洪水で舟溜りが埋没して舟の運行は絶たれた。

鳥ヶ原から上野へは、明和3年(1766)の大洪水で舟溜りが埋没して舟の運行は絶たれた。

鳥ヶ原から上野へは、明和3年(1766)の大洪水で舟溜りが埋没して舟の運行は絶たれた。

鳥ヶ原から上野へは、明和3年(1766)の大洪水で舟溜りが埋没して舟の運行は絶たれた。

鳥ヶ原から上野へは、明和3年(1766)の大洪水で舟溜りが埋没して舟の運行は絶たれた。

鳥ヶ原から上野へは、明和3年(1766)の大洪水で舟溜りが埋没して舟の運行は絶たれた。

鳥ヶ原から上野へは、明和3年(1766)の大洪水で舟溜りが埋没して舟の運行は絶たれた。

鳥ヶ原から上野へは、明和3年(1766)の大洪水で舟溜りが埋没して舟の運行は絶たれた。

鳥ヶ原から上野へは、明和3年(1766)の大洪水で舟溜りが埋没して舟の運行は絶たれた。

平石峠から近つ飛鳥博物館へ

松永恵一

曼珠沙華



曼珠沙華 一むら燃えて 秋開つよし
そこ過ぎてゐる しづかなる後

木下利安

久しぶりに稲田の広がる郊外を歩く。静かな人けも無いあぜ道のそこそこで、曼珠沙華が群れ咲いている。そこだけがあかあかと火をたいているように見える。強い秋の陽がふり注ぐ。

中村重田男

曼珠沙華が赤い葉をひろげているように、入日もまた赤い光線を幾筋も大きくひろげる。天球を集める入口の葉の中で、曼珠沙華はますます真紅にその色彩を誇っている。輪生している花弁や葉のからまりを見て

いると、どこからか風怒が強い、不思議な幻想の世界へと誘いこまれてゆく。

中村汀女

なにか幻覚を誘うような、あやしい美しさは、子供の頃の記憶をなまなくよみがえらせる。この句は作者が三十歳をこえ、二死の形となってからのものだという。

曼珠沙華は彼岸花、彼岸が近づくと待っていたかのように、すくっと仰ぎて花をつける。彼岸にあわせて律儀に花の盛りを迎える。仏教でいう彼岸とは、迷いの此岸から苦惱の流れを乗り越えて到達する悟りの世界。祖先、亡き人の供養を忘れた俗事に忙しい凡人を、きりりとたしなめるような赤い花である。

泉屋山寺にこもっていた時に、この地に遊観し、求聞持法の修業中、高貴徳王菩薩の出現を感じて寺名を高貴寺と改め、伽藍を創建し、嵯峨天皇のために金堂の五大明王像を刻したと記す。修行中の未明、仏法僧という高の声を聞いた。

後夜則法僧鳥 後夜に佛法僧の鳥を聞く
閑林鶴堂空堂 閑林に建り鶴堂空堂の殿
三寶之寶閣一鳥 三寶の宝一鳥に聞か
一鳥有聲入心行 一鳥有聲入心行
野心空水俱了々 野心空水俱了々たり

「統遍照発祥性宗祖神國沙卷第十一」
閑林の中の庵に一人たたずむ、夜明け、仏玉・法空・僧王と叫ぶ声が一ひの扉から聞こえる。鳥に仏法僧と鳴く声があり、人に三玉と聞く心がある。声に対する雲心に對する水、これらがともどもに、仏のまごりの境界をあらわしてやまない。

大師の時を耳にされた後鳥羽上皇は鹿野行幸の時、特に軍聲をめぐらされた。
我國は みのりの道の、ひるければ
鳥も鳴ふる 仏法僧かな
南北朝の兵火にあつて空塔は鳥羽に帰したか、江戸時代後期に慈光尊者(秋光)が復興し、曼珠沙華の鉢本山の認可をうけ、修行修行の道場となった。

求聞持法

求聞持法というのは、唐の善無畏三蔵が訳した『虚空藏菩薩能誦陀羅尼最勝心陀羅尼求聞持法』をテキストに用い、虚空藏菩薩を本尊として、民間認知したことを保持して長く守られたという記憶遺産の法である。

東海西の三方のひらけた行場に東方、あるいは南方をむいて坐し、虚空藏菩薩の化身である明星の光をむかえいれつつ、真言を念誦しつつ、虚空蔵と団体となる神秘の秘法である。

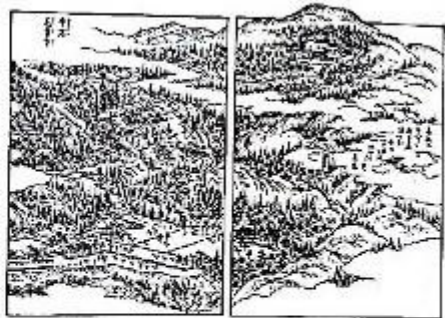
阿平 阿道捨 福聚耶 呪 阿明
迦藍明 蘇利 蘇利 蘇利
Namo akasa sarbhaya om ari
kamari mori svaha
虚空藏菩薩をあがめ帰依したまつた。ゆたかな蓮華の花のように、慧塔の光明に、成就あれ……

近つ飛鳥博物館

匠土記の丘のゆるやかな山道を歩いていくと、緑の谷に「大阪府立近つ飛鳥博物館」(アスカテイア・古墳の魂)の階段状の特異な外観が忽然と姿を現す。

大阪出身でわが国を代表する建築設計家の安藤忠雄さんが「平成の古墳」をイメージして設計。野外劇場のような白い花崗岩の緩い大きな階段が建物の裏板になっている。建物は地中に埋まっているかのよう。古墳に敷き詰められた石を思い起こさせる階段のほかは、「雲集の地」以外何一つない。

安藤さんは、この大階段を居る山に残る古墳群を眺める客席に見立てたという。そのため博物館の入り口は、まるで古墳の内郭へ入っていくようなときめきを感じさせる細く長い通路。ロビーの吹き抜けには巨大な塔がそびえる。この塔は太子町・鹿谷寺の十三重の石塔の実物大復元建築案。館内は日本の古墳時代を象徴する仁徳天皇(大山古墳)の模型が中央に据えられ、そのまわりをスロープで取り囲み、展示室を見ながら、ゆっくりと下へ下へと降りていく屋形展示がとられていく。ここでも古墳の内郭へと向かうような感覚が強調されているようだ。展示室の目玉は「雲集」。



高貴寺 (河内各所図会)

コース概観

今回のコースは、大和から平石峠を河内へと越え、森の静寂の中にたたずむ、葛城修験の護国寺に詣り、磐船神社、平石城跡から、府立近つ飛鳥風土記の丘、須賀王団群の近つ飛鳥博物館へと足をのばす。周辺は近畿最大の森などの史跡が集中する地域。ファミリーハイキングしながらの文学歴史探訪を楽しめる。



に立て籠もった楠木正成に向かって、鎌倉幕府の軍勢が押し寄せる。正成左右衛門尉茂直は正成に頼り平石城に籠もるが、戦い利あらずして落城。自刃。延文四年(正平十四年1133)には足利勢が五百騎にて米磯。楠正成に従った茂直の子、茂幸の奮戦むなしく落城、高貴山に逃れる。

近鉄奈良駅下車。正面に目にかぶさるように二上・葛城の山容がまざまざとく。大和と河内の国境の山容があつた葛城山は南から北にゆたたりと傾斜し、岩橋山があり、平石峠、竹内峠をへて二上山につづく。このまま、まっすぐすすめばやがて竹内街道は上池で二股にわかれ、右すれば竹内峠、左にゆけば石峠にでる。左にとる。

振り返ると大和盆地の柔らかな大地がひろがる。街道や河川が網目のように交錯し、田圃のところがこころに胸をふせたように被緑にぬりこめられた小丘が散らばっている。平石峠(377・5尺)の河内側の斜面に役の行者を祀る石祠と不動明王の石仏がひっそりと残る。ここは葛城二十八宿妙経妙善菩薩頭第二十四の地。「和州より河内に入たらんと峠を十間土下り往來のなり手」と『葛城集』に記す。かつては往來する人々を見守つた石仏が、峠道のたたずまいをいっそうひきまててくれる。

木漏れ日がさす植林の中の道は、雨水の浸食で荒れている。道はいっしか舗装路となる。水溜池を通り過ぎるとまもなく集落が見え、「左・かうまじみち」の石標が出迎える。山門をくぐるこ峠の参道。春は枝垂れ桜、夏はしたたる緑と涼気、秋は山を

包む楓の紅葉。本立の旗を左に入つた鎮守の社の石垣が葛城二十八宿妙経觀世音菩薩誓門(第五)丁五の屯。裏の院には築山修善の大きな五輪塔がある。その隣に桃園天皇の母、明明門院の御養母、大和郡山の殿様、御養母守保光公の墓がある。

磐船神社に向かう。古くは櫻祠といつた。「先代河内守本記」に伝える。「葛城日尊が天磐船に乗り河内國川上の岬津に天降つた」と、磐船と称する船の形に似ている大小の岩が点在する。浪の吹き寄せた形がある磐石という名の石もあるという。味登の伝承は公野市にも残り、船形の巨石をこ神体とする磐船神社が鎮座する。前方に河内平野がひろげている。その道は琴海(海)空とのあわいに雑音の帯が見える。草木のにおい、耳もとをすさる風のささやき。五官がやわらかになごみ、身のまわりの自然がこけあつていくのを感じる。この地に浮遊している空気が中にさびりされているのは不思議な空間だ。

参道を下っていくと平石の集落、舗装道路に出る。平石城へは道標に従って前方の竹藪の境の小道を登る。標識を見落とさないようにして左に折れると城跡。小祠と城跡碑がある。元應元年(1133)赤坂城

雑木林の屋根道を近つ飛鳥風土記の丘・一須賀王団群へ向けて歩く。一須賀古墳群は、高塚千塚・平屋山千塚とともに河内の三大群集墳のひとつで、東西・南北とも約100の丘陵に約1500基にものぼる膨大な数の古墳が存在した。弥生時代の高地性集落・東山遺跡や須賀器の窯址もあつた。

歴史台や散策路から眺察してみると丘陵の屋根面に花崗岩の白塗石を利用した横穴式石室が並ぶのがよくわかる。これは屋根を二単位として上下し、先端から次第に高い塔状へと古墳を作っていたことを示している。

石室の内部には板床組製の組合式家形石棺が安置され、金製の垂飾付き耳輪や金銅製の巻、馬具、須賀器、ミニチュアの炊飯具など白磁器の文様が彫刻され、蘇我氏や和漢氏との関係が有力視されている。

近つ飛鳥博物館は、時代をまるごと再現したような復元模型や、コンピュータグラフィックなどの映像、古墳内部に収められている状態で出土品が配置されるなど臨場に見せる工夫がされた博物館。

藍色の空を染めながら、実にゆっくりと、絵具や人工的な染料ではとても出せない、深みのある朱色をした大迫力が水平の海に沈

みかけていく。これはと愛しく、美しい夕陽を見たことかあつただろうか。信じがたいほど幻想的で感動的な夕陽は、見たことはなかった。それは今まで見たどの夕陽の色よりも深く、神秘的で、魅力的であった。

コースタイム

近鉄阿倍野駅(約45分)⇨磐船駅(1時間30分)⇨平石峠(45分)⇨高貴寺(10分)⇨磐船神社(30分)⇨平石城跡(50分)⇨一須賀古墳群(25分)⇨府立近つ飛鳥博物館(10分)⇨阪南ネオポリスバス停⇨近鉄阿倍野駅

(費用)

近鉄阿倍野駅⇨磐船駅 480円
阪南ネオポリス⇨高貴寺 240円
近鉄阿倍野駅⇨阿倍野駅 340円
(地形図) 2万5千1:1大正国
(問い合わせ先)

高貴寺 0721(23) 22880
府立近つ飛鳥博物館 0721(93) 8321
開館時間 午前10時から午後5時
休館日 月曜日、年末年始
常設展入館料 小中学生100円、高校・大学生など200円、その他300円

初秋の山

特選 コースガイド

- 1 錫杖ヶ岳
- 3 藤無山
- 2 黒尾山
- 4 亀の山から三濃山



初秋の山・雑感

ひんやりとして、夏ばて気味の体調も回復してきている。
この時季になるとハイキングの人々で林道の常車も通み合っている。それぞれのグループが思い思いのコースへと、登山口に

夏が目を覚ましておさまってくる。秋雨前線が南下すると、大降からの移動性高気圧におおわれて秋晴れの日は続く。空気が

あたる紙に電車が停まるまで、どっと吐き出されていく。いい大人が皆、楽しそうに子供のようにはしゃいでいる。今日一日は仕事や家庭から開放されて、どの顔も生き生きしている。背負ったリュックも重たい登山靴も軽やかに。これを、ハイキングの醍醐味ではないだろうか。中には子供連れのファミリーハイキングもいる。素素うな家族を見ていると自然と心もなごんでくる。
秋空の下、駅からコースの取っ掛を過ぎ、ススキの高原へと足をのびます。そろそろ汗ばんでくるが、頬にあたる高原の風が気持ちよい。見晴らしの良い峠の分岐に出た。本組のハンチがあった。腰を下ろして一服する。今まで歩いてきたススキの原の中に登山道が脈を引くように見える。まだまだ大勢の人がその道を通って行く。ここまではもう山頂は近い。尾根道をたどれば一投足である。切り立った岩の上に山頂が見えている。そこにもすでに何人かの人が到着して、展望を楽しんでいる。
私もゆっくり休んで、山頂めざして最後の急登の尾根をたどった。初秋の澄んだ空の下、遠くの山々の展望が広がってきた。

たのしい山歩き

尾瀬雑考⑩

「出逢いさまざま」

松下 満

尾瀬に魅せられて約50年、その間に山で出逢った人は実に多い。いろいろな思い出があるが、そんな人の中で特に私の心に残っている人たちについて書いてみます。
○橋野のKさん。 瀬高校の尾瀬修学旅行のガイドとして同行し、行程を終えた私は尾瀬湖畔で別れ、一人で大清水へと下山していた。三笠峠を約100分過ぎた地点に女性が一人倒れている。声をかけても返事は無い。どうしようかと迷ったが結局大清水まで背負って下った。スタイルの良い若い女性だったから背負えたのかも。一人旅

で体調不全と高山病であった。いまでもこのKさんとは季節の便りをお換しています。
○用意周到なおばあちゃん。 真夏の尾瀬ヶ原から尾瀬沼への峠小屋沢付近で女性3人組に出逢った。しっかりとした服装と足ぐり。何んと四歳のおばあちゃん。50代の孫娘・孫娘の知人のお医者さん。孫娘いわく「おばあちゃんのみ唯一の楽しみは尾瀬に来ることです。でも高齢だから万一のときは、大勢の皆様に少しでも迷惑をおかけしないようにとお医者さんに同行してもらっています」。女医さん「おばあちゃんには私より元気ですよ。登り道なんか私より速いんですから」。女医さんのリュックには往診靴が……。おばあちゃんが自分でリュックを背負っていたのは言わずもがなでした。
○東京からの人でした。
○招待客のお父さん。 新幹線に「のぞみ号」が走っていると。山行中にも招待客で歩いている人を見かけることがある。西宮のNさんと尾瀬へ一緒したとき「こんなにゆっくり歩いていたのでは体力作りにはなりません」とお叱りを受けた。Nさんはコースタイムを練う人だったのである。自然を、花を愛でながらのツアーでは不満のようであった。体力作りが目的なら何も尾瀬にま

で来なくてもと思ったのは私一人ではなかったようです。
○オールド借り物のおばはん。 見るからに履きこんだ登山靴・着られた服装・汗まみり入ったリュックなど、クワイヤらしいおばはんは誰の目にもそう映った。いよいよ登山開始。いきなりの急坂にどうも様子がおかしい。体調でも悪いのかと一人心配する。同行者も気づいたらしい。思いあぐねて集わねると、登山は全くの素人、服装等は全て借り物。同行者の協力を得て山小屋へ登ったのは道行間近であった。数名に先を行ってもらい山小屋に連絡済みだったので、何か夕食にありつけたのはありがたかった。服装に馴染みました。
○福野旅館の人。 前を歩いている婦人がよく転ぶ。注意して見ると下り階段のあるところで転んでいる。聞いてみるとその人は福野旅館で、登山は50歳くらいで下り登山がどのくらいかよく判らないと言われる。腰袋の大きい所では、私は後向きになり彼女の足首を持って「一歩一歩下って行った。本隊に2時間遅れでやっと合流でき、夕もやの煙る大江温泉を山小屋へと急いだ。このような場合は事情の分かった同行者が必要と思われまます。

山と高原地図シリーズ

定価 各70円(税込)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1 北アルプス編 | 34 飯沼山 |
| 2 白馬岳 | 35 朝日・出羽三山 |
| 3 奥羽山・奥羽郡 | 36 鳥羽山 |
| 4 磐梯山 | 37 富士(東山・北山) |
| 5 上高地・穂・穂高 | 38 奥阿・早池峰 |
| 6 奥羽高原 | 39 八幡平(東山・西山) |
| 7 加賀山 | 40 十和田湖(西・東) |
| 8 中央・南アルプス編 | 41 ニセコ・羊蹄山 |
| 9 木曽駒・五木岳 | 42 大雪山・十勝岳 |
| 10 甲斐駒・北岳 | 43 日川 |
| 11 穂高・磐石・奥岳 | 44 飯山・伊岐・奥阿 |
| 12 妙高・戸巻 | 45 飯沼山・霧ヶ岳 |
| 13 志賀高原・草津 | 46 北奥山脈 |
| 14 磐梯山・流石 | 47 京都北山1 |
| 15 西上州・妙義 | 48 京都北山2 |
| 16 奥ヶ岳・霧ヶ峰 | 49 京都西山 |
| 17 八ヶ岳・妙料 | 50 北穂の山々 |
| 18 富士・富士五湖 | 51 六甲・摩耶・有馬 |
| 19 箱根 | 52 奥阿高原・二上山 |
| 20 伊豆 | 53 金剛山・姥湯山 |
| 21 丹波 | 54 紀伊高原 |
| 22 奥阿・摩耶 | 55 阿蘇郡 |
| 23 大高野山脈 | 56 大峰山脈 |
| 24 奥阿山 | 57 大谷川・大形谷・湯見山 |
| 25 奥阿山・妙義 | 58 赤目・御留山高原 |
| 26 奥阿山・妙義山脈 | 59 赤目山脈・赤目湖 |
| 27 奥阿山・妙義山脈 | 60 大山・京山高原 |
| 28 奥阿山・妙義山脈 | 61 西国山脈 |
| 29 奥阿山・妙義山脈 | 62 石岐山 |
| 30 奥阿山 | 63 奥阿山々 |
| 31 日光・奥阿山 | 64 九曲・阿蘇 |
| 32 奥阿山 | 65 北山・奥阿 |
| 33 奥阿山 | 66 奥阿山々 |

※ 図文社の「山と高原地図」は半世紀として毎年春
新発行されます。この山の標高はなるべく最新数
値をご使用ください。また、お読みいただけます。
※ 図文社の「山と高原地図」へのご質問・ご意見が
ございましたら、本社編集部「山と高原地図」に
ご来信ください。また、お電話でもお問い合わせ
いただけます。

昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11
電話03(3262)2141(代) 〒100
支社 大阪府大阪市西成区6-11-23
電話06(303)6721(代) 〒552
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・福岡・立川
名古屋・金沢・京都・広島・福岡



もよく、眼下には芝野から津市外まで
意のような風景が広がり、食事をいっそう美
味しくしてくれ、雨の時はたすかる。
縦走路として町尻尾を三角点ピーク
74.7°から越え、へおる道もあるが京
阪神からの日知りは無理。下山路はもと米
た道を戻るほうがよい。急降下のため注意、
子供連れは特に標高に注意を要する。又も
の足りない方に、木ノ木林道の結への下山路
を紹介しよう。
元の田舎ノ木峠から谷におりず、直進する。
前のピークへ登り、後は屋根上についた踏
み跡を下ると、急降下標高の坪つき台地に出る。

合地の界から延びる支倉根をさるにたると
と林道の峠手前の車が往回できる広場にニ
りつく。ここから林道を「JR加太駅」へ。時
間が30分程度分をみておけばよい。
(平成5年10月24日歩く)
△コースタイム▽加太駅(2時間30分) 錫
杖ヶ岳(2時間) 加太駅
△地形図▽2万5千1:10000 平松
△参考▽
◇ 交通利用は京阪神からJRのみ。マイ
カーでは名阪国道、加太向井インターで
降りれば便利

特選コースガイド

南鈴鹿の鋭峰

錫杖ヶ岳

初級コース(★)

出口 蕨次

鈴鹿

私の故郷伊賀の深山から東に見る南鈴鹿
の山嶺の雄。錫杖ヶ岳を紹介しよう。
JR関西線松坂駅を出てトンネルを過ぎ
ると右側車窓から見える山並みのなか、一
段と高いピラミッド型峻峰が目につく。標
高676mと低い山であるがなかなか雄力
ある山だ。昔から雨乞いの山と言われ、日
照りが続いた時、雨乞いに頂上に登ると翌
日雨が降ると伝えられている。
無人駅加太駅で降りる。ここで標高15
0m。駅前の大和街道伊賀越え(国道25号)
を右へ、酒屋の先の辻を左へ橋(加太川)
を渡り向井集落から離れ、前方の名阪国道
の下を潜りぬけ、右の袖ノ木林道に取りつ
く。左右の斜面が杉植林の植林道で、回

りこんで峠というよりは坂の上を越えるとい
う感じで、やがて小神武谷川沿いになる。
平成5年、夏の雷雨で林道の崩れ、車
両通行不能だが歩行には差しつかえない林
道を進むと、左支谷の右肩に、加太山の全
の道標が立つ。「錫杖ヶ岳上へ2時間」と書
いてある。ここから林道をはなれ、谷の左
岸につけられた山道をとる。
この谷も雷雨の被害を受け、崩れ箇所も
あり鉄パイプで補修されている。送電線下
を過ぎると谷水も消え、淵れ谷にわり斜面
の勾配もきつくなりシタザザ登りで旧袖ノ
木峠の鞍部に出る。標高399.5mの鞍、峠
から左支谷内内におりる道も今は崩道とな
り踏み跡さえ消え、灌木が茂るが、崖面に風
望が広がって伊勢中部の山々の様子がか
える。
ここから左の穂尾根(関町・志賀町境
界)を登る。地図には小起伏がないが、3
〜4回の急登、急降下がある。ナンバの尾
や岩壁のクサリ場があり、木の根組みの急
登などで、気のめけない山道だ。
頂上直下、右におりる小道の分かれは四
阿林蔵小屋にでる道。先ずは頂上に急ぐ。
ここから垂直の最後の急登で、バツと広
た空間が錫杖ヶ岳頂上で、岩塊の重なる台

錫杖ヶ岳山頂にて



状広場となっている。三角点はないが海拔
676m、360度展望。北には鈴鹿山脈、
東には伊勢高から知多半島、南には中部伊
勢の山々、経ヶ峠から登取山。西には伊賀
の深山から三生の山々がずらりと目を染し
ませてくれる。晩秋から初冬の天気の良い
日には富士山も望見できるという。
風が強い時は弁当食事はさっきの四阿休
憩小屋までおけるとよい。風下にあり眺望

明智光秀の周山城跡から

黒尾山

初級コース(★)
内田 嘉弘

京北十景の一つ、栗尾峠の展望。から、周山に広がる田圃と山の眺めはなかなかよい。この峠をくだると周山である。

京北栗尾峠でバスを降りると山手へ道が延びている。突きあたりは民家、その手前で、右に回り込むと地蔵の林道になり、200mほどでその林道は終点となる。「緑をまもろうNHK」と書かれた看板があって、杉林の中へ山道が延びている。登り始めてすぐに「周山城はこの道1・0km」京北町観光協会」と案内板が出ている。ジグザグの山道を登り、支尾根に出ると「周山城本丸跡まで約500m」とまた案内板が出てくる。この支尾根の端のコブにNHK京北テレビ中継所があるから、そこから先に登っ

てみた。天童山・飯森山それに竜ヶ岳・地藏山が首を長くする見える。先程の案内板まで戻り、支尾根を登ると念願に囲まれアンテナの木、丸いアンテナ、城跡の石垣が出て来ると台地状の周山城跡で、先端に避雷針がついたアンテナが立っている。

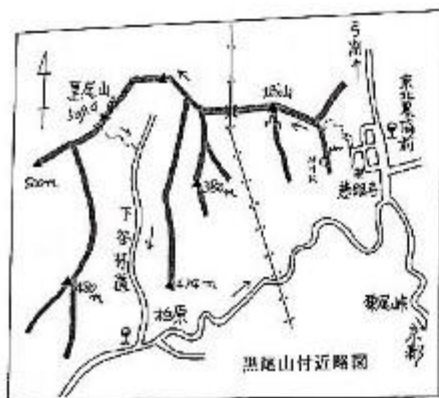
周山城跡は台地のうだげが雑木林で周りは杉林に囲まれているので、展望はない。案内板には、「周山城跡・明智光秀は天正七年(1579)宇津頼重を滅ぼし、周山城を築いた。もと細野といったが、光秀が自ら周の武土に、また信長を殿の正にたてて周山と名づけたといわれる。京洛を望む要がいの地に築かれたものであったが、現在は本丸跡の石垣、蔵庫敷を含めて660平方メートル、かじや丸、馬かけ場、陣地跡など十五ヶ所の遺跡が残っている。京北町観光協会」とある。

明智光秀は、大堰川と高瀬川の間合流地点、細野西方の黒尾山東峰(城山)に築城しようとして、多数の農民と神社・仏閣の資材、基石までも強制徴発したといわれる。そのため、永年にわたって宇津氏と関係の深かった山国庄木郷六か村は光秀方の殿しい軍政と築城法に反発し、天正七年八月、山国と周山の細野細野坂で決戦、荘官の窪田・比

黒尾山(新石より)



果らは戦死、生存者は諸方に逃亡し、山国の人や社寺は焼き払われたという。後、光秀の死により、築城半ばの周山城は光秀方の残党の手で焼き払われた。城山で少し休憩して黒尾山へ向かう。杉林を西へ、尾根の両サイドに城の石垣がまだ残っている。コルまで下ると送電線の鉄塔があって、北から北東に鴨瀬谷山から続く美山町と京北町の町界尾根が望めた。



鞍網が北向きから西向きになる地点の緩やかなピークにメタ礫があって、シカの足跡が見られた。この辺りから松と雑木帯の稜線に変わり、クロモジ等の低木が目立ち始め、登りつくと松と檜の間に二等三角点がある。南に切り開きがあって、地藏山と竜ヶ岳が樹林の縁線の中に描かれているように見えた。

道477号線をテクテクと周山へと歩いて。城山の麓、周山の菩提寺に明智光秀木像がある。菩提寺の住職・桑山本寛和尚は私の高校時代の担任の先生。光秀像は寄木造りで、烏帽子姿の座像である。当時、「逆臣」光秀を憐れってか、隠されて安置されていたという。そのために全身を墨で塗られてある。

(平成5年5月19日歩く)

- ▲コースタイム▼
京北農協前(30分) NHK京北テレビ中継所(25分) 城山(10分) 鉄塔(30分) 黒尾山(5分) コル(10分) 林道(30分) 柏原(45分) 周山
▲地形図▼5万11京都西北図
2万5千11周山・飯森山



明智光秀像(菩提寺)

輸入ブーツは甲狭く、甲軟く、カントも薄く、その上土踏まずのアーチが崩壊するまで固質味の日本人には合いくらいものです。深いばかりか、時にはヒザ、腰のトラブルの原因にもなります。アンドウなら必ず安全な！
材質の底はヨーロッパ製を使用していますので、防水性、耐久性、復元力も抜群、しかもうれしい軽さ。富貴山靴からウォーキングブーツまでフルラインアップ。関西では最良のみの独自販売です。是非一度お試し下さい。

登山靴ならアンドウです



- ①カームネスⅡ ¥30,000
- ②#1400 ¥30,000
- ③#2500G ¥38,000
- ④#102 ¥29,000
- ⑤#1504 ¥25,000
- ⑥ホットスタップ ¥27,000

山とスキーの
ヨジミスポーツ
〒543 大阪市天王寺区河堀4-70
TEL06(772)7231

2等三角点のある山

藤無山

上級コース(★★★)
山形 敷之

我々中高年になじみの深い登山ガイドブックに「中高年の山1000山コース」がある。その本にこの藤無山(1139m)がとりあげられているが、交通が不便なため行きそびれていた。しかしこの本で紹介された山もあらかた登ったので、今回は藤無山にだけかけた。

交通の便が悪く公共の乗り物ではとても日帰りは不可能。又バスを利用しても長い林道歩きが面白くない。大阪からマイカーで中国道に入り、山崎インターを出て国道28号線を北上する。一宮町の役場を過ぎた所から右折して朝来町の方角に進む。やがて国道429号線を横断して北上するのだが、藪当り所で小峠に行きたいと尋ねて今

一度道を確認するとよい。山の谷あいにある静かな山村小原に入ると、志津に向かう林道が右に分岐する。志津には2100mの杉の家が見られるが既に廃村のようである。ここから道は舗装もされて少し悪くなり、沢の両側に伐採地が散々と志倉林道は終点となる。小原の分岐から約3・5kmである。ここが登山口になる。ガイドブックでは「ここからは中央の小さい尾根を絡むように、よく踏まれた植林の道が続いている。そばにはまっすぐに伸びた太い杉の木が並んでいる」となっているが、目の前は尾渡すかぎりの伐採地に杉の幼木がまばらに育ち、足元は雑草が埋めつくしている。もちろん登山時のよく踏まれた植林の道も草に埋もれて跡形もない。ともかく小沢の右手に踏み跡を探して1000mほどばかりも登ったが、藪にははさまれてはかどらない。見上げると、沢の左に延びる尾根は伐採された植林地で、尾根上には木が残っている。この尾根は植林のピークに続いて、ガイドブックの登り着く後継ぎにも頂上に近い地点になる。とうとう藪越ぎになるのなら近いほうが得た。左の尾根上へ急登する。尾根上には後継ぎに踏み跡が延びていた。古い腰掛けのネットがあり、ネット沿いに

志倉林道終点登山口



登って伐採地を過ぎると、林の中の小沢の上にはっきりした道が一直線に延びていた。後継ぎに登り着いてもガイドブックの時から道は全く認められず、わたしの来た道のほうがはっきりしていた。

後継ぎは大岩が散らばり、道はその下を総んで行く。やがて頂上手前の小さなピークを乗り越え、全く踏み跡も消えて、一面とばかりの藪となった。もう頂

材が置かれていた。

この道を700mばかり北にたどると展望の良い場所があり、大嵐スキー場から須賀ヶ峰の山々が望まれた。この道は大嵐スキー場に降りていたが、藤無山に向かうのか、あるいは若杉から延びる林道に向かうのか、何の標もなかった。しかし山頂からはこの道一本しかないから、この道を探せば藪池をせすに登れそう。

藪越の下山は慎重に目印をたどる。後継ぎに取りついてからは一本手前の尾根に入らないよう注意する。もともと下に林道が見えているので間違えることもないだろう。

実はこのコースを歩く前にガイドブックの下山口になっている藤無山に先ず行ってみた。マイカーではどうしてもピストンになるので、標高差の少ない峠からの方が楽

だろうと思った。しかし峠からは全く道がなく、何となくの道に迷ってしまった。所どころ古いテープは認められるものの藪越の連続で、行く手も定めがたい。30分程度を満ちてみたが、上では時間もかかるそうなのであきらめて志倉口に向かったのだ。

この山はどこにも道標がなく、テープさえ見あたらない。山中でもわずかに古い目印を見るだけで、頂上の標高板のみが唯一藤無山を表していた。

思うに、「中高年の山」でも藪がひどいとあるが、中高年向きには少しハードである。又現状はすでにガイドブックの記事とは変わっているので注意して歩くことが肝要だ。

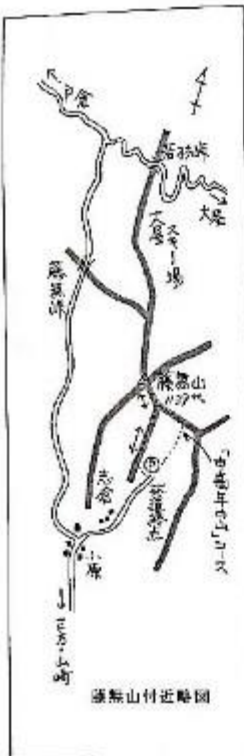
△コースタイム

- 大阪(マイカー)2時間40分 志倉林道終点
- (1時間) 後継ぎ (1時間) 藤無山 (1時間 15分) 志倉林道終点
- △地形図 2万5千1:6万 姫路
- 2万5千1:6万 山形



藤無山山頂

周囲は林で風向きはないが、空は明るく暑い太陽が照りつける。わたしの登って来たほうには全く道はないが、北の麓線から道が登っていて測量やぐらの塵



藤無山付近地図

西播磨青陵山地縦走(その3)

亀の山から三濃山

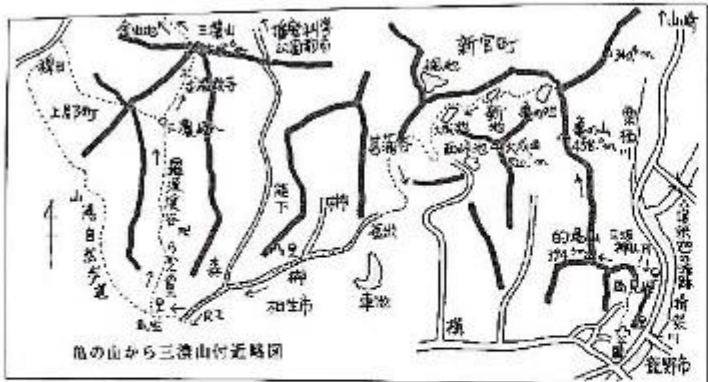
初級コース(★)

須磨岡 輯

廣部「赤とんぼ」のふる里として有名な小京都・龍野。を出発点にしよう。

神姫バス「龍野」停留所をすぐ左へ折れ北龍野町を北上すると右辺りの灯ろうの前にましかかる。三坂神社の参詣道で、山陽自然歩道でもある。拜殿で、今日一日の安全を願う心あらたに祀奉する。

神姫道の三坂川沿いを上がると西見原峠へ通じる道標前に出る。しばらくくづの林。その後は自然林の残る山脈を沿ひ歩きやすさを一気に入れの嶺へ登りきる。この峠は土子峠で、直進すると紅葉谷を経て龍野公園。左は、原生林の残る龍野山の頭へ、右は、これからの登る龍野山へ尾根が続く。一原入れたり出発。植林帯の急坂をゆ。



亀の山から三濃山付近地図

の山並みを眺める。龍野から10分ほどで平家源八伝説の残る龍野台地へ着く。一

くりと、足元に注意しながら進む。時折、林の切れ間から龍野川の流が見え、荒い息づかいを和らげてくれる。二つ目のピークを過ぎると急坂も緩くなり、小さな土手をつくり返す。突然、潭水が開け、眼前にNの峰が現れ、足元には的場山(394.3m)の2等三角点の石標が頭をもたげている。山頂から南に龍野内の尾々、運が良ければ西國山地の眺望がきく。北に大成山(520.1m)が中垣内川を挟んで手の届く位置に見える。小峠の後、被線上のアップダウンをくり返しながら北進すると、鉄橋を過ぎ、4等三角点へ着く。

龍野山から始まり、亀の山に至る尾根筋が、お秋通さん³⁰⁾の遺愛に似ているので、折保川を挟んだ東龍野の宿筋に「龍野川の渡し」の名が今に残っている。北に明神山(須磨郡)の遺愛がきく。龍野川の原根をさうに北進すると右に植林帯が現れ、城山城跡へ足を踏み入れる。日の差し込みが薄暗い静寂の地に「龍野の乱殉難者供養の碑」と刻まれた小さな五輪塔の前へ着く。一服した後、くづの木の、先に別れを告げ山頂へ向かう。緩い登りをしばらく行くと「門の徳石」の標識があり、この反対(西)に亀の山(458.8m)の4等三角



点在雑木林の中にひっそりと佇まわっている。眺めのよい山頂に別れを告げ下りにかかる。途中、馬立³¹⁾・山野³²⁾の分岐、魚石を過ぎるとまもなく亀の池の堰堤へ出る。しばらく池の景色を楽しんだ後、芝付きの堤を突き切り、湖入の谷に沿って進む。これを下りきると中垣内からの林道と合流。これを50m上流へ歩き、新池、大成池への分岐を左へへる。ほどよい傾斜をしばらく進む、瀬音が聞こえるともまもなく新池の堰堤に乗る。

山上海で味覺がないので大成池へ向かう。心地よい林道を進むと、前方に大成池の堰堤が現れこれを駆け上る。次いで、池の右を進み高瀬谷森林公園へ、現在龍野町の公園内を抜け西峠へと向かう。峠手前を右折、崖道になって何年になるのだろうか。コース上に併が昔大石に伸びる行手をさへさえる。まもなく赤茶けた崖壁が残る高瀬谷牧場と龍野跡に着く。東に大成山、北方に新宮町

軒家が残っている。これが朽ちると何百年も経った歴史が終結を迎えるのかと、寂しい思いで釜出への分岐へ向かう。

直進すれば、西龍野峠に、右へ下り谷筋に残る榎田跡や、石柱の遺しる。木をやりながら谷を下りきると、のどかな正舎の風影が残る相三郎の墓田の最奥部へ出る。釜出から村居の舗装路を歩き、橋のバス停を経て、森林浴で、山を縦横の案内板に誘われ瓜生池へ入る。ここで山腹自然歩道と別れ、三濃山のコースをとる。龍野溪谷沿いにはコテージが並び、年間を通じて多くのキャンパーで賑わう。釜出から舗装路を歩きつづめるので管理センター前で小憩。

管理センターを過ぎ、自然林の残る溪谷沿いの地道の林道を歩き出す。途中、げんこつ岩、不慮の標識を道目に進むと三濃岐れに着く。直進すれば峠越えて釜出地へ通じる。少し勾配が浅し、荒れた林道を進む竹林を抜けると沖群へ出る。しばらく雑木林の平坦道、次いで竹林の坂道を抜けると、求備教寺前の地入り案内板に出る。この寺は古くから伝わる、文相寺³³⁾が有名で、いい出会いがあれば「おつす」をいただける。三濃山(508.6m)の

三角点は寺の裏手の山頂にあるが眺望はななく、早々に引き返し釜出原への急坂の下りにかかると、足元に注意しながら植林帯の薄暗い中を最終バスに乗るべく先を急ぐ。左手の沢の音が近くなると急坂も終わり田園道に出る。まもなく前方に釜出地の家並みが見え、バス停もまもなくである。

▲コースタイム

- 龍野バス停(20分) 三坂神社(15分) 西見坂峠(30分) 的場山(1時間10分) 亀の山(20分) 亀の池(30分) 新池(15分) 大成池(35分) 高瀬谷集落(30分) 釜出(1時間10分) 龍野管理センター前(1時間) 求備教寺(50分) 釜出地バス停

▲地形図

- 2万5千=龍野・上郡
- 5方=龍野・上郡

- ▲アドバイス
- ① 龍野へは龍野より神姫バスの利用が便利。
- ② 釜出地よりJR上郡駅行きの最終バスは、17時11分(1日3本のぞ)
- ③ 神・森からJR平生駅へバスが通じている。
- ④ 山生難関では、日当初に案山子コンクールと紅葉祭りが催される。

山岳夜話 (第5回)

小泉誓純

再会四

人影のない弥山小屋の前まで戻って、軽く行動食をとりながら、一ノタオ(姓)から天ヶ瀬へ下ることを彼女に告げる。

昨日の晩から今日の昼まで、あまりまともな物を食べていないのだが、晴天で暖かいので、今ごろになってようやく彼女に腹気が開けてきたようだ。そう言っただけで彼女は笑った。

一ノタオに近づくと、道は少しずつ悪くなるが、笹を分ける程度のことである。

夕暮からの下りは、最初のうちは良かったものの、やがて直下降の急坂となり、左か右に寄って木をつかみながらの下りとなる。

れたテーブルに案内された。

彼らと同じメニューの編物をつつきながら、生ビールと持ち込みのウイスキーを飲む。ただし、彼らの好奇に満ちた視線を充分に感じながらのことではあった。しかし、ぼくは、それに全く気がつかぬふりをしていった。彼女にそれを意識させないためである。

食後、ぼくは彼女と共に共同風呂に入っただけで、何くわぬ顔でにまやかに山登りや世間話をしたが、彼女は、その後に入ってから、もし誰かが来たらいやだから、あとで皆が寝たころに入ると言った。

かなりのちに、彼女が風呂へ入ったのは知っていたが、戻って来たものには気づかなかった。ぼくも思平で多少の寝不足だったことと、下山後だからけっこうよく飲んだこともあって、すぐに寝入ってしまったようだ。

日が覚めると、もう夜が明けていて、隣室から多人数の話し声が筒抜けに聞こえてくる。彼らは早速寝草の起きる口溜めのような、すやすやと気持ち良さそうに眠っているのは、この客で彼女一人だけらしい。

着替えてそっと部屋を出る。洗面をすま

ぼくが前にでて、ゆっくりと先導することにしたが、しばらくうしろを見ないで下ると、彼女の姿が見えなくなってしまう。小さきまみに行っている所まで追いついて来たときにも、陽気な彼女がモノを言う元気もない。急下降の道でドッと疲れが出て来たようだ。

何度も休憩をとったのちに、それがノーマル・ルートなのか、ルートからはずれてしまった結果なのか、沢に出て、しばらく平凡な沢身を下ると、林道にかかる橋の下に出た。たぶん沢沿いに小道があったのだろう。

ゆっくりと天ヶ瀬側のバス停へと向かう。しばらく歩くと、彼女の口も動きだした。少し楽になったようだ。

バス停に着いたのは行時前後だった。バスで大和上市へ行く手度はすでにない。逆

せて戻り、タバコをすっていると、やっと半分くらい目覚めた様子で、しばらくはもぞもぞとふとんの中で動いていた。あとで気づいたことだが、着衣の乱れをなおしていたのかも知れない。

ふとんの上に乗った彼女は、街着の古い物らしいブラウスと細身のストラップスを身に纏っていた。ぼくは浴衣一枚で寝てしまったのだが、彼女はそうはできなかったことだろう。

朝食をとりながら、彼女は、「今日は休養日にして、樫原神宮参りまで戻って泊まる。大杉谷は明日からにする。……明日からはわたし一人ね……」と伏し目がちに言った。

彼女には、民宿の二室で男と二人だけで一夜を過ごしたことの跡じらいと、明日からは少しさびしいという感情があるようにぼくは感じたが、これにもまた、気づかないふりをした。

ぼくはこの連休に、他にも山行の約束があって、彼女を大杉谷に案内したあと、別れて帰ることにしていた。

そしてぼくは、彼女が大杉谷と樫原岳へ行ったあと、長崎への帰途につく前に一度連絡するように言って、樫原神宮前で別れ

方向の河合へ行くことにして、電話ボックスからいくつもの旅館や民宿に一夜の宿泊を申し込んだが、ゴールデン・ウィークとあって次々と断われたり、受話器も取ってくれなかったりだった。

そしてこれも駄目なら今夜は宿無しで、河合のバス停か北山用の川原でビバークという羽目になったとき、電話機最後の一軒の女将に対して、ぼくはいかにも今までの何度か泊まったことのある客のようなバフオーマンスで、勝負をした。成功。

このような縁結があった、田舎とはいえず、人里つまりシャバのメイン・ストリート近辺での女連れビバークという、サマにならないうことはせずすんだ。

その民泊には道案内の人数が多人数で長期滞在していて、それ以外の客はぼくたちだけだった。そしてかろうじて、小さな部屋が一つ空いていたのだ。

空いていたその唯一の部屋は、広間をふすまに近い簡易制切戸で区切ってあるだけで、隣室の光が所々から漏れ入ってくる。これは隣室にこっそりお互いさまの誓である。

落ち着く間もなく、食事の知らせがあった。隣の食堂へ行くと、彼らから少しはなれて大阪・あべの橋へ向かった。

洛中慕情 (一)

数日後の夕方、彼女は京都市内のホテルから自宅へ電話をかけてきた。

彼女の話し方とことによれば、樫原神宮前で別れた日は、先日はと一晩に泊まったホテルに再び泊まり、翌日は大台ヶ原でバスを降りてすぐに桃ノ木小屋へ向かった。

日出ヶ岳の登山と大台ヶ原の周遊は、以前に済ませていたからだ。

桃ノ木小屋で一泊後、大阪を経て四日市へ行き、翌日はホテルから藤原市を往復した。

その翌日、つまり今日は、近鉄特急がどれほど減速のため、釜名から近鉄の普通電車で大垣へ行き、「R」の快速電車を乗り継いで京都へ来た。

今朝は遅くまで寝ていたし、電車で移動しただけではあるが、まだ少し疲れが残っている。およそこんな報告だった。

「いっせいのっ」
「明日はゴールデン・ウィークも終わりがから、明日の夜行なら、切符を取れると思っただけだ。今日あとで買いに行ってみる

「つもりなの。……あなたも明日で連休は終わりね」

「うん。また毎日仕事というわけだ。キミは「サンデー毎日」でいいね」

「いつまでこんなことしてられるか分からぬけど……」

「明日は一日で済ますつもりなんだ？」

「休業を兼ねて、京都市内をブラブラしようと思ってるんだけど。……あなたが案内してくれたらうれしいけど、そんなに出勤してばかりもいられないわね、家庭サービスマしなくっちゃあ」

「まあ、カミさんも友だちと遊びに行つて、今日帰つて来たばかりだから……明日は京都へ行くか。戻り局へは、早くがいつ行けるか、わからないから、次はいつ会えるかわからないことだしね」

「ホント？ 来てくれるの？」

「キミはぼくの山屋スタイルしか見たことがないんだから、明日はぼくだとわかるかな？ 間違つて、よそのオジリンに声をかけられて、ついて行くなよ、フフフッ」

「アハハハハ、ホントだよ。あなたの背広姿も一度見てみたい。じゃあ、わたしも何か着る物を買わなくっちゃあ。安物しか買えないけど」

「そのままでもいいよ。残りの荷物が増えるだけだぞ」

「でもこんな衣食スタイルで街を一緒に歩けないじゃない、あなたが背広を着て来るのなら」

「オレはそんなこと気にしないよ。どうせこっちもラフなスタイルで歩くだろうし」

「ぼくはブレザーでも着て行くつもりだが、朝になって気が変わった。彼女の「背広姿の肌をみたい」という期待に合わせるためには、スーツのほうが良いだろうと思つたからだ。しかし休日のデパートというのに、白無地のシャツにネクタイでは堅すぎるので、ストライプのシャツに赤系統のアスコットタイにして、スーツは明るいグレーの無地のダブルで出かけた。

そして今回は、約束の時間の10分前に、阪急の河原町駅に着いた。

彼女はすぐに来たが、そばに来るまでぼくは気づかなかつた。彼女がぼくのまったく予想外の服装でやつて来たからだ。

彼女は淡いピンクの無地のブラウスにチャコールグレーのタイトスカート、黒のローヒール、そして山行の行き増りに使つていた小さなショルダーバッグという、まともと云つべきかお上品と云つべきか、あるいは

は地味と云つべきか、そのようなスタイルをしていた。

「初めて見たけど、今日はいいいワッパをしてるね。似合ってるぞ」

「エウッ」

「髪を束ねている、そのワッパ状の布のことだよ」

「アハハハハ、あなたに似合わない表現ね。ホントに似合ってるぞ」

「うん」

彼女はブラウスとは戻同じ色の「ワッパ」で、やや長い髪を束ねていた。

地下から四条河原町の交差点へ出る。まずは喫茶店へでもと思つていたら、ぼくは思いもよらぬことを言われた。

安物を買つたので、ブラウスのボタン穴の仕上げが悪く、背中のボタンが一箇所どうしてもかかなくなつた。そして着なおしていれば遅刻するかもしれないので、そのままホテルを出て来たとのことで、それをかけてほしいと――。

しかしここは京都市内でも屈指の大通りの多い交差点であるし、ぼくは、はずした経験はあるが、かけた経験はない。どうしたものかと迷つた末、すばやくかけてやろうとした。だがもともと通子が悪いという

に、自分のをかける場合と指の勝手が違つてそうはいかない。汗顔の作業。ではあった。

河原町通りの東側をしばらく上がったところでお茶を飲み、そこから木屋町へ入つて京阪三条までゆっくりと歩く。

食事の時間を充分にとるために、ここから駅までは電車に乗った。

南禅寺の山内を登り、樓門にも登つてみたあと、湯豆腐などで飲みながら、彼女から今回の山行の盛衰を聞いた。

美しいという点では大杉谷が一番だったが、下降した点でもあり、やはり

「やっただあー」という実感があるのは八経ヶ岳だと彼女は言つた。

そして今では湯豆腐は、銀甲を穿つるコースを登つてしまつたと思つている。もし、歌謡コースを登つていたら、百名山の二つを稼いだという実績にはなつても、自身にとっての十分条件は満たされなかつた可能性が高いとも言つた。また、藤原法はどうというほどの山ではなかったが、鈴鹿の北部の様子を初めて知つたという意味では、行つた甲斐があつたとのことである。

次いで彼女は、ぼくと返答を共にして感じたことについて、面白おかしく話つた。

「まず第一に、あなたはやさしい。言葉にはあまりださないけど。……いやチャウナ。口に出さないで態度に出すから、余計にグツとささやう。わたしのような者でも、一個の人間として尊重してくれているのがよく分かります。そして頂上屋である」

「ハハハハハ、南禅寺の般若堂はすぐに効くようだよ。特に愛子センヤイには」

「第二に、頭痛頭痛が遠く、言葉も動作にも品がある。わたしの父や兄とは100%違つた」

「ホイホイ、オレの悪友や息子が聞けば、100%違つてくれるだろうなア、これは、ハハハハ」

「第三に、つき合ってる女の子がいる苦である」

「フフフッ、どうですかねえ」

「被害は、自分の不利になる事項については、答えなくてもよろしいが、ウフッ」

「ハハハハハ、いつの間におれは被害になつたんだ。原告兼裁判長なんてのはするいぞ、おい。少なくともわが国では通らない。独逸重工業社下じやあるまいしね」

彼女は、ぼくの山の中でのお話を聞いて、ぼくに自然との一体性を感得したともいい、ぼくの自然観や登山観が、先人やその著書から観念的に得た知識のレベルにあるのではなく、身についた本物であることを感心し、山登りというものの奥の深さの一端々、観念的ではなく、具体的なものとしてうかがい知ることができたような気がするとともに言つた。



(次号へつづく)

富士山—二九バス停—泉佐野駅
 (約13分) 南海総合サービスセン
 ター106(643) 1005
 ▼朝日ファミリーハイキング「紀
 見峠から草葎繁17経路へ」10月
 16日(日)由天中止集合高野観音見
 峠前—紀見峠—葛城山行達家—流
 谷八幡—天白駅(約9分) 南海総
 合サービスセンター106(643)
 1005

阪急

▼日刊スポーツファミリーハイキ
 ング「第11回東大甲山系クリンハイ
 ング」9月15日(日)由天中止「Aコ
 ース」東大甲山系山頂—新御園
 9時—Aコース—吉野園—御園上
 流—御園—御水橋—北山公園—北山
 タム—藤林寺(観音堂)—観音谷
 —鬼谷(約8分)一般向「Bコ
 ース」東大甲山系山頂—新御園
 前9時30分—Aコース—吉野園—御
 園上流—御水橋—北山公園—北山
 タム—藤林寺—御水橋—北山公園—
 トローリ橋—奥池(約7分)一般
 向「阪急山の系06(3713) 5
 326(土・日休)
 ▼10周年記念特別ハイキング「大
 甲山山頂走破」ハイキング⑧・天狗道
 から摩耶山ニコース」9月23日
 (日)由天中止(日)由天中止(日)由天

付新神戸駅を前公園9時30分—10
 時ハコース—駅前公園—市引貯水
 池—市ヶ原—稲妻坂—天狗山—摩
 耶山—アゴニー坂—他谷峠—市立
 自然の家—三回池—丁ヶ辻—大
 甲山ホテル前—式台台合—大甲山
 ゴルフ場—六甲ヶケル—山上駅
 (約14分)一般向「阪急山の系06
 (3713) 5326(土・日休)

京阪

▼スポニチファミリーハイキング・京
 都—明トレイル系山—大文字山・
 比叡山コース」9月11日(日)由天
 中止集合上野水広場9時30分
 ハコース—京津線—上野—京
 水広場(受付)—一日向大神宮—大
 文字山—観音寺道—北白川社(町
)—石鳥居—ケル—比叡山(解散
)—ケル—八幡宮—比叡山(解散
)—比叡山(解散) 京阪事業部06(94
 4) 2522
 ▼比良遠征アタック「明王谷・奥
 の深谷コース」9月25日(日)由天
 中止集合—上野山頂9時30分ハコ
 ース—上野山頂—伊藤新道出合
 —牛ヶ平—大橋—金輪分岐—八
 雲が原—山頂—山頂—比良駅
 (約7分) 京阪事業部06(94
 4) 2522

叡山電鉄

▼自然観察教室シリーズ⑨比叡山
 方面の自然観察一きのこを中心と
 して」10月2日(日)由天中止集合
 飯山ヶケル—上野山頂9時ハコ
 ース—ケル—比叡山—上野山頂
 —比叡山頂—山頂遊園(約4
 分) 定員200名 叡山電鉄運輸
 課075(781) 5122
京福
 ▼高橋ハイキング・カルチャーワー
 ーク「京福沿線新橋所めぐり」その①
 10月8日(日)由天中止(日)由天中止
 四条大宮駅前10時ハコース—
 神社—雲龍神社(東折神社)—
 滝院(天龍寺)—滝院寺—大山井
 財天(野々宮神社) 京福電車鉄道
 部075(80) 5315

屋敷、平ヶ原、谷、終りの山小屋
 林、三日月、大滝、
 清四郎、小座、
 はんもの、手、て、茶、店、は
 山、海、
 〒0446 新橋、北橋、
 3257911、5122261
 0257911、3169966
 本店 0257911、3169966
 0257911、3169966

汗をたっぷり流せる温泉と
 往々鮮魚のシャブシャブ
 日本海の鮮魚と山の幸
 ハイカーの宿
 ナガサキロッジ
 〒0449-121 新潟県中頸城郡
 妙高高原町の平温泉
 02575108-122261

高山の花、湖原の花
 妙高湖と大杉山
 百名山を二つ登れる山小屋
 黒沢池ヒュッテ
 〒0449-121
 新潟県中頸城郡妙高高原町
 池の平温泉 ナガサキロッジ
 02575108-122261

海から見る朝日と海に沈む夕日
 を眺め、山と海の両方が楽しめる、大佐渡船主の隠れ家。足と夜
 景に酔いながら眺めたいはずむ
 国民宿舎 大佐渡ロッジ
 1泊2食付 02575108-45570
 〒0520 新潟県中津川市
 02575108-45570

神戸電鉄

▼神戸ハイキング「北摂の名山と名刺
 を歩く」有馬富士と花山院ハイキ
 ング」9月15日(日)由天中止(日)由天
 ハコース—三田駅—三田神社—有
 馬富士—花山院—神姫バス志手原
 (約15分)一般向「神戸観光事業部
 078(0321) 0321
 ▼神戸ハイキング「炎と煙のペーシ
 ェント」加那院大産院供養物ハイキ
 ング」10月10日(日)由天中止(日)由天
 ハコース—赤松駅—自由が丘—大
 塚—千代地蔵—加那院(大塚陣
 供)—神姫バス加那院口(約8分)
 一般向「神戸観光事業部078
 (521) 0321
 ▼神戸ハイキング「紅葉前線まっただ
 中」三田開港と紅葉海道ハイキ
 ング」10月23日(日)由天中止(日)由天
 分(有馬温泉駅前約15分)ハコ
 ース—有馬温泉駅—林が池公園—緑
 橋谷山—湯澤谷—百間池—紅葉谷
 道—有馬温泉駅(約8分)一般向
 神戸観光事業部078(521) 0321

山陽電鉄

▼山陽ハイキング「ジェームス山・
 鉄筋山ハイキング」9月4日(日)由天
 流の茶屋駅前10時ハコース—

山公園 ジェームス山—城塚—旗
 振山—鉄筋山—須磨寺駅(約6分) 家
 族会館 山陽電鉄ハイキング係0
 78(94) 6916
 ▼山陽ハイキング「須磨明月ハイ
 ング」9月18日(日)由天中止(日)由天
 駅午後6時30分ハコース—須磨浦
 山—須磨浦前—滝原山—鉄筋山—
 おらが山—須磨寺駅(約4分) 家
 族会館 山陽電鉄ハイキング係078
 (94) 6916

▼山陽ハイキング「広峰山・そら
 めん流ハイキング」10月2日(日)由天
 城北公園10時ハコース—城北公園
 —広峰神社—地蔵山—そらめん流
 一般向「山陽電鉄ハイキング係078
 (94) 6916
 ▼山陽ハイキング「播磨町・高砂
 神社ハイキング」10月30日(日)由天
 播磨町駅前10時ハコース—播磨町役場
 前—別所—高砂公園—相生駅—
 高砂駅(約15分) 山陽電鉄
 ハイキング係078(94) 6916

三鉄鉄道

▼初秋の御池屋敷山 9月25日(日)
 由天中止(水)由天中止(水)由天中止

△8時ハコース—近鉄富正駅—西
 藤原駅—御池屋敷山—コグレルミ谷
 —御池屋敷—鈴北峠—高橋峠—西藤
 原駅—近鉄富田駅(約15分) 会費
 200円、バス代大人1000円
 小人500円、定員150名、約
 申し込み制、運輸課観光係059
 3(64) 2141

▼手賀渡砂山ハイキング(山沿い
 コース) 10月16日(日)由天中止(上)由天
 合近鉄富田駅—三軒線ホーム—9時
 ハコース—近鉄富田駅—大宮駅—
 宝徳深々キャンプ村—山頂—五藤
 滝—山頂—砂山—手賀
 渡キャンプ村—大宮駅—近鉄富田
 駅(約15分) 会費200円、参加
 自由、運輸課観光係0593(6
 4) 2141

▼初秋の御池屋敷山 10月30日(日)
 由天中止(水)由天中止(水)由天中止
 △9時ハコース—近鉄富田駅—西
 藤原駅—大宮—藤原山—旗
 振山—高砂山—砂山—西藤
 原駅—近鉄富田駅(約9分) 会費
 200円、参加自由、運輸課観光
 係0593(64) 2141

□これ以外にも多数の催しがあり
 ます。各社の広報も見て下さい。

休憩屋、入浴も歓迎
 10名以上マイクログラスまで送迎
 稲根山石炭温泉
 〒2550-16 神奈川県足柄上郡、郡
 神奈川町石炭 339
 0460-419041

四季織りなす温泉地のハイク
 上湯地・湯治入浴 冬はスキー
 けやき湯りと味の清・日帰り
 温泉旅館 けやき山荘
 〒390-16
 長野県安曇野市安曇川町茶臼原
 026633-332000

さわやか信州
 湯田中温泉(約15分)
 〒391-04 長野県下高井郡
 山ノ内町湯田中温泉温泉
 026691-3313578

標高2000m以上の温泉
 湯の丸温泉(約15分)ハイキングにXCCスキー
 〒0604
 長野県小市町高野温泉
 026671-252600

山行計画

新4キンプラ705

このページの山行計画には、「合則に限る」と特記してあるほかは合費外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するように保ち込んでください。「費用」のほかに参加費代とその他の資料代費用を頂くことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合は任意で係に連絡してください。体調が悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。別会の参加者全員に障害者保険がかけられています。出発点降の係に保険料(日額50円、夜行日帰りの場合は2日に1000円)を支出して頂きます。(A-I保険会社と契約)

障害者保険特約内容は次の通りです。

- 死亡・後遺障害保険金額 1000万円
- 入院保険金 5000円
- 通院保険金 2500円

保険の対象は本会から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。(1)ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行。(2)スキー・杖市の山行。(3)沢・岩・水登はんを目的とした山行。(4)宿泊場所内の事故。(5)詳細は係まで。

(記入例)

(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行
期日
住所 〒
電話番号
氏名
会員番号
(会日でない方は会員外と記入)
生年月日
緊急時の連絡先

ご自分で名欄に宛てハガキの住所氏名を記入してください。

平日大塚ハイイク3
旧花背峠から豊取山(一般向き)
期日 9月8日(日)日帰り
集合 飯沼出口駅前バス
のりば9時50分
コース 出町駅→旧峠口→旧花背峠→豊取山→二ノ谷登山口→豊取山→豊取峠→寺山峠→花背原前→出町(解散19時10分前)

費用 保険代50円(交通費含む)
地図 昭文社「47京都北山」
係 前中 級
申込み 〒610001 城陽市寺田大塚10の10 新ハイキング園西まで

豊取山へは二ノ谷を登る。序生の勢走大神は、炊飯後「宮原伝授手籠籠」の舞台と伝わる寺小屋跡。昼食は13時頃の予定。雨天中止。

地図読み山行5
ボンボン山(一般向き)
(新ハイ園西支部合同)
期日 9月11日(日)日帰り
集合 J R高槻駅大坂寄り西口の北口タクシーのりば9時
コース J R高槻駅(タクシー)川久保→402・6号峠

1620杉峠→観音寺→ボンボン山→せせらぎの里→出次→J R高槻駅(解散)
費用 約10000円(交通費)
地図 2万5千→京都西南部・淀・法貴・高槻

係 坂元一彦○小笠原敏子
申込み 〒610011 京都市西京区大塚北山出町1の5の2の520 小笠原まで
定員20名「合費に限る」

林道歩きをさせて木陰の尾根道から登ります。コンパスの使い方や地図の読み方を勉強しながら歩きます。多少やぶもありです。シルバー目型コンパスと地図必須。雨天中止。

比良・蛇谷ヶ峰(一般向き)
期日 9月15日(日)日帰り
集合 京都駅発7時57分湖西線 永原行き先頭車両に乗車
コース 京都駅→近江高島駅→湖上ボート→蛇谷ヶ峰→朽木畑→出の森→市原→安曇川駅→京都駅
費用 約40000円(交通費)
地図 昭文社「46比良山系」
係 杉田智俊 ○上村操

申込み 〒610001 城陽市寺田大塚10の10 村田まで

本隊の道と展望のよいコースを歩きます。朽木温泉で一浴の後、安曇川駅へです。小雨決行

文学歴史散歩
当麻寺から園土記の丘

期日 9月25日(日)日帰り
集合 近鉄三原寺駅前9時
コース 三原寺駅前→当麻寺→祐泉寺→鹿野→岩倉寺→竹内峠→平石峠→高野寺→豊船神社→平石城跡→須賀寺→湯原温泉→石→附近ついで湯原博物館→飯沼ネオポリスバス等→近鉄三原寺駅前

費用 約15000円(交通費同倍)

地図 2万5千→大和高原
係 杉本 級
申込み 〒5800 松原市岡2の2の22 杉本まで
春の静寂の中にたたずむ湯原温泉寺から、近つ飛騨園土記の丘へと尾をのぼす。雨天中止。

地図読み山行6
小塚山から大塚山(一般向き)

期日 10月2日(日)日帰り
集合 阪急東向日駅改札口9時15分(JRが便利なのは向日町駅発9時15分の小塚行きに東向日駅の上り)

コース 阪急東向日駅→小塚→豊船寺→三輪寺→杉谷→604号峠→小塚山→大塚山→落西新林センターバス停→飯沼温泉(解散)
費用 約5000円(バス代)
地図 2万5千→京都西側部

係 坂元一彦○小笠原敏子
申込み 〒610011 京都市西京区大塚北山出町1の5の2の520 小笠原まで
定員20名「合費に限る」

コンパスの使い方や地図の読み方を勉強しながら歩きます。5月に雨で濡れた小塚山の再見。秋の日を浴びてゆっくり歩きましょう。初めての方から参加歓迎します。シルバー目型コンパスと地図必須。雨天中止。
落J R向日町駅から乗車の中人は申込み時に記入のこと。

平日大塚ハイイク4
比良の道②

期日 10月6日(日)日帰り
集合 京都地下鉄北大路駅京都バスのりば10時10分(北大路通鳥丸東入口側)からみね屋コーヒエ店前

コース 北大路駅→登山口→豊原谷青木峠→玉体杉→橋山山一御木峠→大塚(解散)
費用 保険代50円(交通費含む)
地図 昭文社「47京都北山」
係 前中 級
申込み 〒610001 城陽市寺田大塚10の10 新ハイキング園西まで

無谷峠と橋山山は急登です。縦走路はヤブ歩きもありますが、琵琶湖の眺望は抜群です。昼食は13時頃の予定。小雨決行。

地図 昭文社「47京都北山」
係 前中 級
申込み 〒610001 城陽市寺田大塚10の10 新ハイキング園西まで

保 ①稲垣逸天 ②高橋英五
○新町幸夫
申込み 久保町2065番地まで
定員25名
マイカーで来られる人は「車参
加」と申込みは書き記入のこと、
小雨決行

金巻アルプス

粕坂手跡から天狗岩・落ヶ滝
期日 10月16日(日)決行
集合 J.R.津浦駅前8時50分
(マイカーの人は9時30
分までに上宿生キャンプ
場の駐車場へ)
コース 津浦駅上宿生→西園尾
根→南谷林道出合→粕坂
寺跡→岡見岩→上石峰→
天狗岩→北嶺尾→落ヶ滝
→滝上→上宿生→津浦駅
費用 約2000円(交通費)
地区 2万5千→海田→三雲
係 ①西出 寛 ②中西信行
申込み 〒610-001城陽市寺
田大群10の10 村山まで
誰も歩かない西園尾根から展望
の天狗岩をめざす。小雨決行。

山行報告

新ハイキングクラブ編

5月1日(日) 曇り
山本バス停9:00→小枝池→落ヶ滝→大
石群→落ヶ滝→小枝池→落ヶ滝→
45→土庫→落ヶ滝→11→10→落ヶ滝→11→
30(昼食)12・15→小枝池13・45
→林道15・30→大石群駐車場15・
50(解散)
○案内に踏まれざるもの落ヶ滝
なかなかの難関コースを皆元氣
に踏破。出会った花、シヤガ、ヤ
マブキ、ヤマドリソウ、マムシグ
サ、ショウジョウバカマ、アカヤ
シオ、コバノミツバツツジ、イワ
カガミ、イワウチス、ヤブツバキ
等々。
(参加者) 岡本政一 石田真由美
辻原元弘 辻原新一 稲垣逸天
本村好和 塩田和洋 大矢知正浩
南 寛子 山本雅一 森 美香子
大野手樹 大野晴紀 大野美子
大野 輝 大矢知正浩
中辻信行 稲垣逸夫 尾崎英五
(計19名)

京都北山歩き31

朽木・白倉岳(一般向き)
期日 10月23日(日)決行
集合 京都駅発7時57分境内線
永原行き先頭車庫に乗車
コース 京都駅→安福川駅→村井
→松木地蔵→牛ノ下→鳥
帽子峠→白倉岳→白倉南
→上宿生→安福川駅→京
都駅
費用 約5000円(交通費)
地区 2万5千→久多→舞野
→文社→信比良山系
係 ①村田智俊 ②山島義治
申込み 〒610-001城陽市寺
田大群10の10 村山まで
色づき始めた比叡の山々を健健
しなから歩きます。白倉岳二峰を
縦走します。道は整備されて歩き
やすい。小雨決行。

文学散歩散歩20

九度山から極楽橋(一般向き)
期日 10月30日(日)決行
集合 寺町九度山駅前8時30分
コース 九度山駅前→高根→東郷
→神谷→極楽橋→羅漢堂
費用 約2000円(宿泊費被
駅定員交通費・保険代)
地区 2万5千→極本→高野山
地区

保 ①松本恵一

申込み 〒580松原市南2の2
の22 松本まで
(信仰の山、高野山の麓に秋を求
めて歩く。ファミリーハイイクに最
適。雨天中止)
キリマンジャロ
ゆつたし登頂11日間
(東京新ハイ本館合同)
期日 平成7年2月11日→21日(例
10泊11日)
コース 成田→松中泊→カラチ→
アリコーン→シヤ→シヤ→マラン
→グレート→マンダラハッ
→ト→ホロンボハット→
→キボハット→キリマ
ンジャロ登頂→ホロンボ
ハット→シヤ→マラン→ゲ
→トリアルンヤ→シヤ→ナイロ
→ビ→松中泊→カラチ→機
中泊→成田
係 ①高柳生雄
費用 約12万円(予備)
申込み 〒37-1大宮市宮原町4
-87-1 高柳生雄まで
*11月30日まで

申込み者には後日詳細を連絡致
します。

ロイヤルホテル航空・関西

国際空港線(一番機で行く)
カンチニシエンガ マカール!
トレッキング8日間
(日程)10月30日→11月6日
10/30関西国際空港14・00発→
カトマンズ(ホテル泊)→ピラ
トナガル→ルンパサ→タナ
→(テント泊)→チローキ村(テン
ト泊)→モンゴルパレイ(テン
ト泊)→パサ→タナ(テン
ト泊)→ピラトナガル→ルンカ
→マンズ(ホテル泊)→機中泊→
11/6関西国際空港12・00発
○旅行代金は、旅行会社と特別
価格交渉中(8月中旬発表)。
○全費予約・ツアードー同
行します。
○最少催行人員15名
○希望者には資料送付、説明会
の日程も後日お知らせします。
主催 アルバインツアーズ
主 機 TEBL03(35003)
1911 恒三 鶴田・井次
企画・問い合わせ 東京野歩隊実行
野本秀正 TEBL(FAX共
03(33003)4837(な
るべく午前中)

フンゲン・貝月山

5月3日(日) 1泊2日
(1日目) 曇り 長狭駅9:40
(乗込) 9:50→長狭吹上10:40
→45→11→10→長狭吹上11:50→リフ
ト終点12:15(昼食)12:50→大
岩13:30→40→フンゲン14:40→
50(往復コース) ロッジ17:00
(泊)
(2日目) 霧雨 ロッジ8:00→
品又峠8:35→ふれあいの森9:
00→10→貝月山10:30→40→日越
峠11:20→ふれあいの森11:50
(昼食)12:30→品又峠13:00→
ロッジ13:20(乗込)15:00→
長狭駅16:00(解散)
展望を期待したが、二山共ガス
の中。やぶこぎのフンゲン、丸太
階段の日月山、それなりに登り甲
斐があった。新緑を花々としてロッ
ジのお風呂でビールが何よりだっ
た。

(参加者) 三木三子 中西 昭
中西和子 吉田重男 山田雄英
平政英子 真田公子 竹高多恵子
長比美美 西崎智雄 前田幸子
堀田義雄 竹田利夫 湯浅次男
今津富子 西田一夫 野崎重郎
横井 徹 横井武子 高月マツヨ
横本和彦 吉田誠也 京井 正

小塚山から大善山(地図参照)

5月15日(日) 雨天のため中止
5月22日(日) 晴れ
赤坂山から三田山
近江今津駅8:40→マキノスキー
場9:50→10:15→展望所11:00
→12→三田山12:06(昼食)13:00
→10→三田山13:50→大塚14:00→10
→黒河原14:30→白谷林道バス迎
え所15:30→マキノスキー場16:
00→近江今津駅16:30(解散)
登り始めた五月雨れ赤坂山の
展望はみごとだった。途中リタイ
アされた西崎さんには、その後、雨
調に回復されました。
(参加者) 深谷正興 山崎多恵子
水野順江 妻原弘子 堀井秀蔵
木島清子 向井明子 川崎高十江
花柳輝子 野口 修 藤原英明
藤岡美津子 塚本忠次 竹田利夫
西崎智雄 長比美美 里井昌子
川口八郎 川口令文 原田高久子
沢田順子 松下 武 久保田英次
西村泰治 岡田正治 千葉千枝子
高橋 寛 日高史郎 小室 平
高田敏生 湯浅次男 吉井 昭一
在道清美 中村英雄 平 龍一
平 幸子 宇田佳代 塚田節子
下村啓子 竹中健司 竹中千枝子
竹内正三 渡辺清郎 宇志崎次郎
則定保夫 本下和夫 仲秋信子
飯山 昇 後藤美代 中西 昭
中西和子 吉田重一 山本 部
宮澤信子 原 澄子 清水いく代
吉野 房 岡田 昇 岡田重幸十
大宮敏枝子 中西信行
○山島義治 ①村田智俊(計19名)

赤坂山から三田山
近江今津駅8:40→マキノスキー
場9:50→10:15→展望所11:00
→12→三田山12:06(昼食)13:00
→10→三田山13:50→大塚14:00→10
→黒河原14:30→白谷林道バス迎
え所15:30→マキノスキー場16:
00→近江今津駅16:30(解散)
登り始めた五月雨れ赤坂山の
展望はみごとだった。途中リタイ
アされた西崎さんには、その後、雨
調に回復されました。
(参加者) 深谷正興 山崎多恵子
水野順江 妻原弘子 堀井秀蔵
木島清子 向井明子 川崎高十江
花柳輝子 野口 修 藤原英明
藤岡美津子 塚本忠次 竹田利夫
西崎智雄 長比美美 里井昌子
川口八郎 川口令文 原田高久子
沢田順子 松下 武 久保田英次
西村泰治 岡田正治 千葉千枝子
高橋 寛 日高史郎 小室 平
高田敏生 湯浅次男 吉井 昭一
在道清美 中村英雄 平 龍一
平 幸子 宇田佳代 塚田節子
下村啓子 竹中健司 竹中千枝子
竹内正三 渡辺清郎 宇志崎次郎
則定保夫 本下和夫 仲秋信子
飯山 昇 後藤美代 中西 昭
中西和子 吉田重一 山本 部
宮澤信子 原 澄子 清水いく代
吉野 房 岡田 昇 岡田重幸十
大宮敏枝子 中西信行
○山島義治 ①村田智俊(計19名)

5月29日(日) 晴れ
南極尾崎駅9:00(乗込)9:
00→西の行老10:45→11:00→杉
尾11:40(昼食)12:20→中葛

城山13・40〜55 十早園地14・30
 51 松法輪寺15・30〜40 十早
 登山口16・20(前夜)
 山の神でイナゴの群居に出迎え
 られ、長い長い金剛山(阿修羅)の精
 走を終ると初夜祭の賑に揺れる九
 輪草(タリソウ)が揺っていた。

(参加者)内山 享 内山孝子
 野口 隆 高橋 寛 庄瀬きき子
 三宅 明 奥村英治 千原千枝子
 山本 勉 美村三枝 二本愛子
 徳永次雄 徳永次男 前田孝子
 前田昌子 ○前田知雄
 ◎松永直一 (計17名)

赤山道から精進寺

6月2日(日) 晴
 出町橋駅9・00(集合) 9・10
 鹿子院駅9・18 赤山道駅9・38
 45 千種平野駅10・53 11・05
 ケーブル比較11・15 25 雲梯
 11・45(朝食)12・45 紅葉入
 垣裏14・27 40 遊覧路西15・
 37 50 JR取山駅16・00
 京都から滋賀へ、一等三角点の
 山頂を経て比叡の古道を歩いた。
 予定の原本本は上中下のため、
 無動寺坂を下った。
 (参加者)藤田光彦 伊藤理紗

東 直美 石岡孝幸 岩波孝子
 山名穂子 真川久子 若田孝子
 宮坂健彦 森田博男 大八郎健彦
 高井英治 前田政雄 ○遊覧路50
 ◎松永直一 ◎前中 殿(計16名)

安土城跡から権山(地図見)④
 6月6日(日) 快晴
 JR安土駅8・50 9・10 徳見
 寺駅9・35 10・00 上守園地10・
 05 16 北津原駅 50 赤坂寺11・
 40 徳見寺原駅12・05 徳見寺12・
 40 権山13・10 25 地蔵堂13・
 50 徳見寺15・10 20 JR能
 登川駅15・35(解散)

殿山から北へ向かう尾根道はワ
 ルシが多く悩まされました。徳見
 寺跡跡跡で所で北坂の引き方
 コンパスの使い方の細説をしまし
 た。先回からの参加者はさすがに
 上達された山歩同定を羨しませ
 ました。又交替しながら先頭歩きもし
 てもらいました。
 (参加者)馬場弘行 馬場敏子
 多田正雄 多田孝子 谷口とも子
 飯田 昇 松本 博 鈴木春雄
 北川良子 坂本文明 高月マツ子
 野口 修 松本隆一 松尾久子
 今井 浩 西川茂男 上田三枝子
 元吉 淳 中村 登 上山千枝子

上羽 薫 ○小倉原敬子
 ◎松本一彦 (計22名)

6月12日(日) 曇り一時雨
 出町橋駅バス停8・30(集合)8・
 35 11 別所11・50 12 10 1
 階村八12・20(朝食)13・10
 15 16 17 00 品谷山14・20 30
 1 15 16 17 15 10 15 10 15 10 15
 15 50 菅原町16・40 50 北
 大路バス停18・20 出町橋駅18・
 30

品谷山周辺の尾根道は、新緑の
 ブナ林に囲まれ小鳥のさえずりを
 聞きながら歩いた。四郎五郎合
 の奥下海をさけ、品谷山から東
 根の跡を辿るさぐりながら、
 びびりくを通ってタンノ峰へ下っ
 た。
 (参加者)阪上義次 野口孝徳子
 野口 隆 東 廣美 藤田貞治
 藤田英明 藤田敏子 堀川貞治
 伊藤敏子 藤田明子 鳴滝クニエ
 橋本芳雄 南 寛子 藤田久美子
 橋本浩美 橋本政一 飯田 昇
 石川和子 石田輝子 芝野瑞明
 前田政雄 今津安司 真田久子
 平政寛子 北尾信枝 神谷孝子

城下木子 金山正也 遊覧路50
 三宅 明 岡田 昇 岡田孝幸
 多賀屋一 多賀久子 仲秋穂子
 山本 山田厚巳 白根健彦
 多田孝子 東藤正正 徳永 薫
 高橋 隆一 横井 隆 横井孝子
 小西雅雄 平 孝子 村田輝子
 福井市之 松林立英 山登加孝子
 大島孝子 高橋 寛 中井ひろみ
 澤木山次 山本孝子 山口久文
 深木山次 川口八郎 川口久文
 林 孝子 堀川英幸 小島マツ子
 西川栄治 清 信昭 久保田英次
 尾野幸治 江 義昭 大宮孝子
 兼田孝子 岡田孝子 田中良子
 林 勉 佐田和夫 呉山三
 吉田隆一 中西 昭 中西和子
 岸松孝子 松本隆雄 宮村孝次郎
 河合照夫 川上久登 田原孝司雄
 鈴木孝子 上井成孝子
 森本良雄子 ○前中 敏
 ○上村 操 ○中西信行
 ○山田知雄 ◎前田知雄(計30名)

白濁谷から木戸峠
 6月19日(日) 曇り時々雨
 出町橋駅バス停8・35 坊村9・
 30 40 牛ノ浦10・40 夫木道12・
 10(朝食)13・00 木戸峠13・50
 1 クロトノハク14・15 大畑14・

50 JR長濱駅16・15 24 丸JR京
 都・大阪

新緑の白濁谷が雨にけむって
 た。雨が強くならなかったが予定タイム
 での歩いた。
 (参加者)坂野正昭 山崎孝幸子
 山崎義治 野口 隆 前田政雄
 岡田 昇 南 寛子 岡田孝幸子
 仲秋一郎 仲秋穂子 西田一夫
 長比坂美 清野謙二 岡崎なほみ
 美野孝治 松野謙二 岡崎なほみ
 御田謙子 小島晴枝 井上直美子
 前田政雄 宮田孝子 上井成孝子
 前田義美 原田克子 松田智郎
 松田智郎 高橋 寛 二本孝子
 松林立英 徳永次男 牧野中子
 吉田明子 田原文昭 林 美智子
 市川哲子 木下和夫 吉原信夫
 中西信行 辻和子 則定英夫
 ○上村 操 ◎前田知雄(計26名)

大和葛城山から笠石寺
 6月26日(日) 晴
 近鉄新宮駅8・40(集合)9・05
 登 葛城山アウエイ頂9・40
 葛城山アウエイ頂9・55 行方ノ滝10・
 20 30 大葛城山頂11・40(朝食)
 12・45 13 13 35 45 14 14
 15 15 15 15 15 15 15 15 15
 ドクダミの白ガクアジサイの

新ハイキングクラブ開会

入会のすすめ
 このページの山行開会を通じて
 正しい山歩きを、たのしい山歩
 ならと味わいませんか。リーダー
 (の)はすべて無償の奉仕で、各
 自で切符を買い奉仕を払い、宿泊
 料もすべてワリカンです。
 あなたも新ハイキングクラブ開
 会に入会して、たのしいお仲間にな
 りませんか。会費には保証料「新ハ
 イキングクラブ開会費」の山行開会
 月会費分をお預けします。会費
 はこのページの山行開会に参加で
 きます。
 (入会費 500円(バツジ代))

年会費 2500円(送料共)

新ハイキングクラブ開会への入
 会申し込みはこの雑誌に挿入の振
 替用紙を「開会」の欄に記入し、
 宛先を〒100 東京都千代田区千代
 田、定期郵便を御希望される方
 も会費に「定期」を添えます。毎号
 雑誌にお知らせが届きますので便利
 ですよ。
 ◎新入会費紹介(1991年まで)
 近藤 浩 ◎堀川正信 ◎高橋 隆一
 岡田博男 三谷英夫 三谷英夫子
 原田隆二 都築博雄 比呂間 昇
 斎藤隆一 口藤幸海 藤崎礼一男
 藤田隆男 尾根義典 岡明 三男
 上山明子 川本幸生 椎名千代子
 堀西繁世 千原敏司 清水昭三
 白井雄一 大原敏雄 川西聖夫
 木元隆雄 藤田英彦 藤田マユ子
 藤澤敏子 甲川由子 ◎村松次郎
 宇野野郎 八木可夫 砂原真孝子
 田中忠実 田中文子 砂原真孝子
 南宮孝樹 堀 良治 前川久次郎
 岡村政光 中岡孝子 永島孝八郎
 池田勝平 酒井明夫 藤井孝子
 安藤 隆 山本孝子 中村雄夫
 赤木若一 石川博康 橋本賢一
 橋本孝夫 松山 了 岩太夫松子

正正と正正

17号(表裏)P77の写真説明上版
 「エチマツキ」は「エキニユ
 ヲ・マツキ」が正しい。
 17号(表裏)P78中段の行目「12
 号18分」は「12号18分」が正
 しい。
 17号(表裏)P79下段後わりから
 2行目の小仙坊の市話番号は07
 468(E)2210が正しい。
 4が抜けていました。御迷惑を
 かけ致しました。
 17号(表裏)P78一段目の行目と
 「二段目」は「二段目」は
 「4号三段目」が正しい。調査不
 足でした。
 17号(表裏)新入会費紹介のP78
 二段目の行目「既記」は「既
 記」正「さん」が正しい。
 17号(表裏)P78二段目(編集後
 記)の7行目からの「開会」は「開
 会」は「開会」が正しい。